

# 木製横櫛の変遷

山内七恵

## 1 はじめに

日本の櫛は縄文時代に始まり現代に至るまで、各々の時代の文化に適応しながら普及した。縄文時代以降古墳時代迄に繁栄した豎櫛は、全て集落遺跡や古墳の発掘調査によって検出された出土遺物である。豎櫛の主な素材は木、竹、動物の骨である。木製豎櫛の製作技法は、刃物を利用して一枚板を刻む「刻歯式」技法と、裁断した棒を並べて紐で縛る「結歯式」技法に分かれる。漆が塗布される例が多く、漆によって強度が加わり、装飾の役割も担っている。現時点で日本最古の福井県鳥浜貝塚出土木製豎櫛は刻歯式技法で製作されており、肩が三箇所に分かれて突出している。木製豎櫛は個々が独創的で装飾性の高い様相を呈しており、装身具として髪に挿して利用されたと推測できる。その他、古墳時代には副葬品として簡素な竹製の結歯式豎櫛が製作され、古墳に大量に納棺されていた検出例がある。

古墳時代に横櫛が登場し、以後近世に至るまで徐々に普及する。横櫛は、遺跡からの出土遺物の他、伝世品が残存する。主な素材は木だが、近世以降の資料には鼈甲製や金属製の横櫛も多く見受けられる。全国各地の遺跡や歴史的建造物内から検出報告があり、遺物年代は古墳時代以降江戸時代迄の長期に渡るため、日本の装飾文化を検討する上で注目すべき遺物であると考える。これまで地域や時代を限定して木製横櫛を考察した先行研究があるが、古墳時代以降近世迄を通じ、全国の資料を一括して変遷し、考古学的に分析した例が無い。そこで本稿では、木製横櫛の通史を概観するための基礎作りとして、日本に残存する古墳時代以降近世迄の木製横櫛を対象に変遷を検討する。櫛の変容過程には各時代の人々の装飾に対する美意識の変化が強く影響を与えたと推測し、木製横櫛の変容過程と、装飾に対する人々の美意識の変化の繋がりを復元することに努めながら考察したい。

## 2 先行研究

『木器集成図録—近畿古代篇—』(1985年・奈良国立文化財研究所)は、奈良県唐古・鍵遺跡を始めとする近畿地方の各遺跡発掘調査によって出土した木製品を基に編纂された。『木器集成図録—近畿古代篇—』の木製横櫛の型式分類は、外形を長方形と半円形の二種類に大別し、資料数の多い長方形をA、資料数の少ない半円形をBとする。さらに肩が角張る形態をI、丸みを帯びる形態をIIとする。この型式分類は横櫛の研究論文に引用されることがあるが、外形と肩の分類だけでは木製横櫛の形態を把握しきれないと感じた。外形と肩の分類に、毛引きの形態と親歯の向きの分類を加えることによって、より明確な型式分類を構成できるのではないか。

## 3 研究の流れ

449点の資料を収集した。各報告書(参考文献)の記述を基に、木製横櫛の各部(図1)の計測値と情報を一覧(表1)にする。一覧に記した内容は県名・遺跡名・遺物年代・型式名・幅の値・長さの値・山の膨らみの値(両肩が破損していない資料に限り計測できる。両肩を直線で繋ぎ、垂直に山の頂点までの値を計測する。値が大きいほど膨らみが大きい)・厚み・1cm辺りの歯数・樹種・塗り・出土地点の12項目である。本稿の遺物年代は、参考文献の記述を基に特定している。古墳時代、飛鳥時代、奈良時代、平安時代、鎌倉時代、室町時代、そして安土桃山時代と江戸時代はまとめて近世と時代区分し、遺物年代が曖昧な資料に関しては古墳時代以降平安時代迄を古代、鎌倉時代以降室町時代迄を中世とする。遺物年代が全く特定できない資料は不明と記す。

### 《木製横櫛の定義》

- 一、棟と歯によって構成される
- 一、幅より長さの値が大きい
- 一、一枚板から成形される

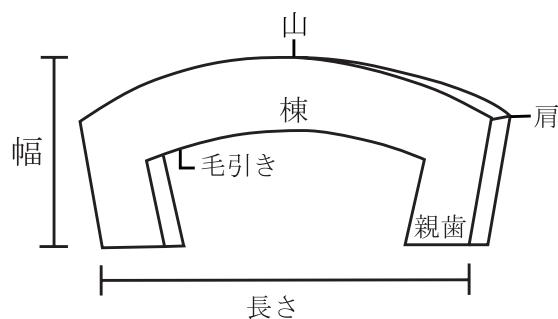


図1 木製横櫛の模式図と各部名称

#### 4 型式分類

外形・肩・毛引き・親歯の4部分を分類すると、木製横櫛の形態の要点を判断することが可能である。外形は半円形、長方形、細長い長方形、幅の値が長さの値の約二分の一の長方形の4種類に分類する。肩は丸みを帯びる形態と角張る形態の2種類に分類する。毛引きは丸みを帯びる形態と角張る形態の2種類に分類する。親歯は外向き、内向き、垂直の3種類に分類する。

【外形・肩・毛引き・親歯】の配列で型式分類を構成して資料と照合したところ、22型式に類型化することができた(図2)。分類記号は、『木器集成図録—近畿古代篇一』においては資料数の多い形態から順に振り当てられていたが、本稿では英文字・英数字・数字を用いて遺物年代の古い形態から順に振り当てる。従って、半円形が

A型式、長方形がB型式、細長い長方形がC型式、幅の値が長さの値の約二分の一の長方形がD型式である。肩が丸みを帯びる形態をI、角張る形態をIIとする。毛引きが丸みを帯びる形態を1、角張る形態を2とする。親歯が外向きの形態をa・内向きの形態をb・垂直の形態をcとする。D型式は全資料の肩と毛引きが角張っているので、肩と毛引きの記号を省略する(図2・図3-6)。肩が残存している資料はいずれの型式に属するかを判断できるが、両肩が破損している場合は型式の判断が困難である。以降、型式が判断できない資料は型式不明と記す。

##### 外形の分類

A型式 半円形

B型式 長方形

C型式 細長い長方形

D型式 幅の値が長さの値の約二分の一の長方形

##### 肩の分類

I 丸みを帯びる II 角張る

##### 毛引きの分類

1 丸みを帯びる 2 角張る

##### 親歯の分類

a 外向き b 内向き c 垂直

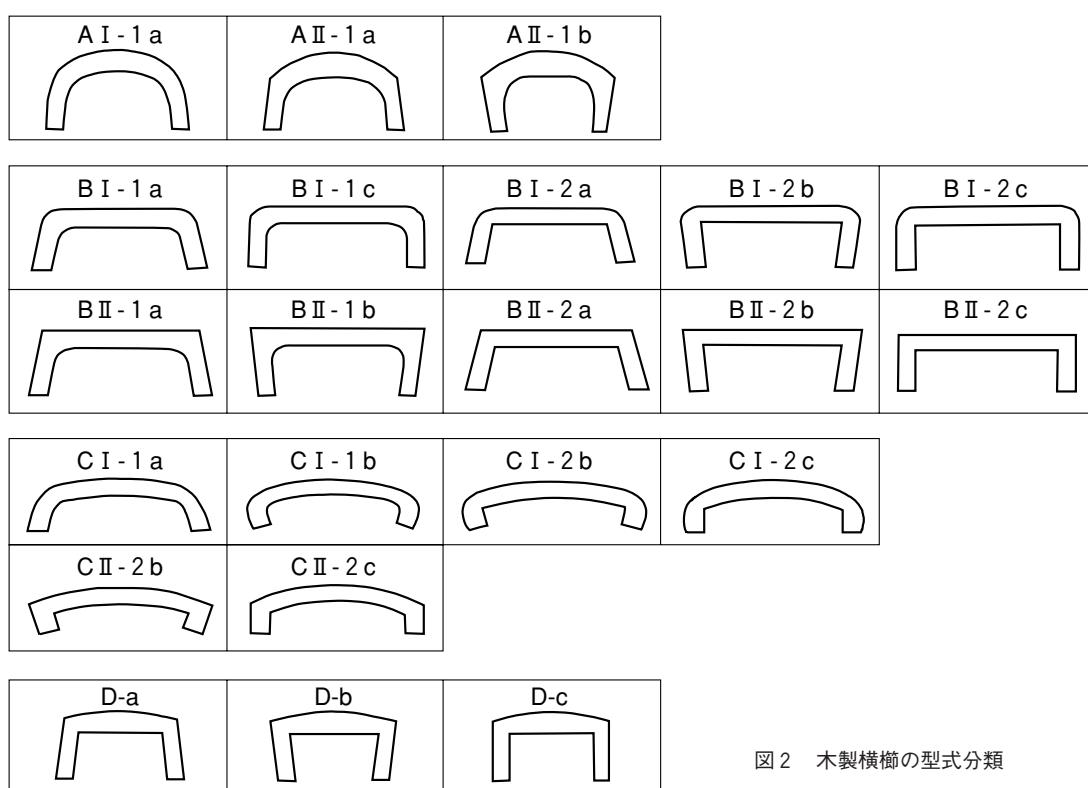


図2 木製横櫛の型式分類



図3 宮城県山王遺跡出土A I - 1 a型式（古墳後期）  
引用文献：宮城県教育委員会・宮城県土木部2001『山王遺跡八幡地区の調査2』宮城県文化財調査報告書第186集

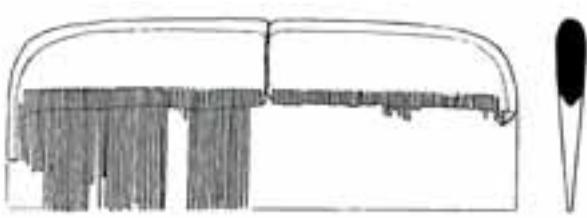


図4 奈良県平城京跡出土B I - 2 c型式（奈良）

引用文献：奈良国立文化財研究所『平城京右京八条一坊十三・十四坪発掘調査報告』奈良国立文化財研究所学報 第46冊

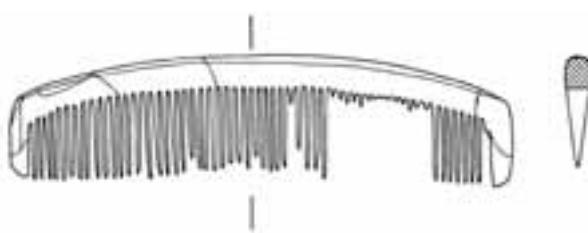


図5 静岡県御殿川流域遺跡群C II - 2 c型式（近世）  
引用文献：財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所1994『御殿川流域遺跡群II 中島西原遺跡・八反遺跡・梅名遺跡』静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第50集



図6 山形県鶴ヶ岡跡城出土D - b型式（近世）

引用文献：財団法人山形県埋蔵文化財センター2002『鶴ヶ岡城跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第99集

## 5 考 察

### (1) 資料数の割合

全体資料数の割合はグラフ1-①に提示した通り、A型式18点(4.0%)、B型式274点(61.0%)、C型式35点(7.8%)、D型式37点(8.2%)、型式不明85点(19.0%)という結果である。A型式は資料数が一番少ない。B型式は全体の60%以上を占めており資料数が豊富である。C型式とD型式はほぼ同量の資料数が存在する。

A型式内の資料数の割合は1-②に提示した通り、A I - 1 a型式10点(55.6%)、A II - 1 a型式4点(22.2%)、A II - 1 b型式4点(22.2%)という結果である。A I - 1 a型式が半数以上を占めている。

B型式内の資料数の割合は1-③に提示した通り、B I - 1 a型式57点(20.9%)、B I - 1 c型式14点(5.1%)、B I - 2 a型式10点(3.7%)、B I - 2 b型式1点(0.4%)、B I - 2 c型式13点(4.8%)、B II - 1 a型式8点(2.9%)、B II - 1 b型式8点(2.9%)、B II - 2 a型式13点(4.8%)、B II - 2 b型式78点(28.6%)、B II - 2 c型式34点(12.4%)、B型式に該当するが細分できないB不明38点(13.5%)という結果である。B I

型式ではB I - 1 a型式の資料が最も多い。B II型式ではB II - 2 b型式の資料が最も多く、続いてB II - 2 c型式が多い。B II - 2 b型式とB II - 2 c型式の資料が多い理由の一つとして、神奈川県千葉地東遺跡から大量に出土報告があるという実情が挙げられる。

C型式内の資料数の割合は1-④の結果に提示した通り、C I - 1 a型式1点(2.9%)、C I - 1 b型式1点(2.9%)、C I - 2 b型式1点(2.9%)、C I - 2 c型式2点(5.7%)、C II - 2 b型式17点(48.5%)、C II - 2 c型式7点(20.0%)、C型式に該当するが細分できないC不明6点(17.1%)という結果である。C I型式の資料は少ない。C型式内ではC II - 2 b型式の資料が最も多く、続いてC II - 2 c型式の資料が多い。

D型式内の資料数の割合はグラフ1-⑤に提示した通り、D - a型式2点(5.4%)、D - b型式28点(75.7%)、D - c型式2点(5.4%)、D型式に該当するが細分できないD不明は5点(13.5%)という結果である。D - a型式、D - c型式の資料は少なく、D - b型式の資料が75%以上を占めている。

B型式に関しては、B I型式は肩と毛引きが丸みを帯びるB I - 1型式の資料が多いが、対照的にB II型式は

肩と毛引きが角張るB II - 2型式の資料が多い。C型式に関しては、肩と毛引きが角張るC II - 2型式の資料が豊富である。このように肩と毛引きの形態を揃える理由は、外観の統一性と、加工の容易さが考慮された可能性があると推測できる。

親歯の向きは、肩と毛引きの両方が丸みを帯びる場合は親歯が外向きになり、両方が角張る場合は内向きになる傾向がある。

## (2) 各型式の大きさ

幅と長さの値が明確な資料(62点)を対象に、木製横櫛の大きさを示す分布図を作成する(図7)。A I型式◆、A II型式◇、B I型式▲、B II型式△、C I型式●、C II型式○、D型式\*と記号をあて、計測値の点に置いた。

A I型式内で、幅と長さの値が明確な資料は1点である。幅61mm長さ108mmで、幅の値が平均値より大きく、長さの値が平均値に近い。A II型式の4点の資料は、幅の値が大きく、長さの値がやや小さい。A型式(A I型式・A II型式)の木製横櫛は幅の値が平均値より大きい傾向にある。毛引きの範囲が狭く、歯の奥行きが深くなるので、髪に挿すことによ適した形態であると推測できる。

B I型式の9点の資料は、幅の値が平均値に近く、長さの値が平均値より大きい。長さの値が大きいと毛引きの範囲が広くなり歯の分量が増えるので、髪を梳くことや解すことに適した形態であると推測できる。B II型式の30点の資料の中では、値が重複した資料がある。B II型式は、B I型式と同様に幅の値が平均値に近くて長さ

の値が平均値より大きいので、髪を梳くことや解すことによ適した形態であると推測できる。

C I型式の2点の資料とC II型式の3点の資料は、幅の値が平均値に近く、長さの値が平均値より大きい。C型式の木製横櫛は扁平で細長い外形を呈しており、1cm辺りの歯数が3本前後の歯が粗い資料が多いので、髪を梳くことや解すことによ適した形態であると推測できる。

D型式の13点の資料は幅の値が平均値に近く、長さの値が平均値より小さい。D型式の木製横櫛を使用して一度に多量の髪を梳くことは困難だが、A型式と同様に毛引きの範囲が狭くて歯の奥行きが深いので、挿櫛として利用することによ適した形態であると推測できる。

## (3) 型式と遺物年代の関係

型式が明確な資料(315点)を対象に、木製横櫛の型式と遺物年代の関係を考察する(表2)。日本最古の木製横櫛は、大阪府小阪合遺跡出土のA I - 1 a型式の刻歯式木製横櫛(図8)である。この木製横櫛には漆が塗布され、側面を見ると棟の部分が膨らんで歯先に向かって狭まる特殊な形態を呈している。この側面の特徴は、斎宮歴史博物館が出版した『日本の櫛—別れの御櫛によせて—』(1995斎宮歴史博物館)に述べられている通り、韓国の光州新昌洞遺跡という同時代の遺跡から出土した木製横櫛(図9)に似ている。小阪合遺跡出土木製横櫛と光州新昌洞遺跡出土木製横櫛の製作技法は刻歯式であり共通しているが、一般的な日本の木製横櫛は細い鋸を利用して歯を挽く「挽歯式」技法によって製作されている。小阪合遺跡出土木製横櫛は、韓国の影響を受け、その技術

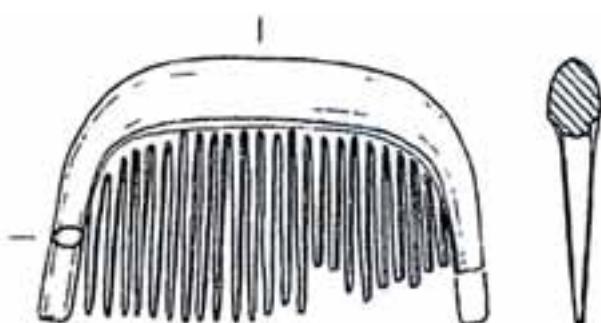


図8 大阪府小阪合遺跡出土刻歯式木製横櫛

引用文献： 小学館 山田昌久編2003

『考古資料大観8 弥生・古墳時代 木・織維製品』

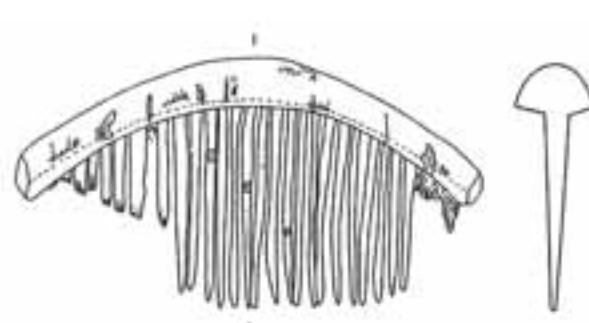


図9 韓国光州新昌洞遺跡出土刻歯式木製横櫛

引用文献：趙現鐘・張齊根1992

『光州新昌洞遺跡－第1次調査概報－』『考古学誌第4輯』

を基に製作された可能性がある。A型式の木製横櫛は古墳時代と奈良時代の資料が多く、特に古墳時代はA型式だけが存在する。

古墳時代の人物埴輪には頭部に櫛のようなものを挿している資料があり、櫛が装身具として利用されていたことが窺える（写真1）。人物埴輪の装身具が横櫛であるか、同時期に普及していた豎櫛であるかは判断することができない。しかし、A型式の木製横櫛と豎櫛には形態や用途に共通点があるため、A型式は豎櫛と同様の要素を持った型式であると推測できる。古墳時代中期以降にはA II - 1 b型式、古墳後期以降にはA II - 1 a型式の資料が存在する。



写真1 - ①・② 群馬県観音山古墳 女子埴輪

③ 茨城県青山神社 人物埴輪

④ 茨城県愛宕神社古墳 人物埴輪

#### 引用文献：

群馬県立歴史博物館1979『開館記念展「群馬の埴輪」』  
城県立歴史観2004『茨城の形象埴輪 - 県内出土形象埴輪の集成と調査研究 - 』「学術調査報告書Ⅷ」  
山梨県立考古博物館『一九九八年 古代の装身具 第六回企画展』

B I型式とB II型式は共に飛鳥時代以降に資料が存在する。飛鳥時代は律令国家が成形され、隋や唐の文化が日本へ色濃く伝わった時代である。隋や唐から影響を受けて誕生した形態がB型式ではないだろうか。B I型式内で最も資料数の多いB I - 1 a型式は奈良時代以降平安時代迄の間に多数の資料が存在し、他のB I型式も同様なので、B I型式は奈良時代以降平安時代迄を中

心に普及した型式であると言えるだろう。B II - 2 b型式は全資料の中で最も資料数が多い。鎌倉時代以降近世迄の間に多数の資料が存在するが、神奈川県千葉地東遺跡（鎌倉時代）から膨大な量のB II型式の木製横櫛が出土しているため、資料数に影響が及んでいる。奈良時代以降に資料数が減少したA型式に替わって、B型式が普及した理由として考えられることは、髪型の流行による影響である。奈良時代は遣唐使によって唐風文化が齋され、それに殉じて結髪にする者としない者が混合していた時代なので、挿櫛と梳櫛の両方が利用されていたと推測できる。平安時代の女性の間では裾の長い十二单が憧れ的だったが、それに伴い、黒い垂髪を背に流すことが優美だと考えられていた。垂髪を美しく保つためには歯が多くて細密な梳櫛が求められ、B型式が普及したと推測できる。

三重県杉垣内遺跡からは古代の祭祀具が多数出土しているが、斎串等の木製品と共にB I - 1 a型式の木製横櫛が出土している。木製横櫛は祭祀や呪術の道具としても利用された可能性がある。

C I型式は全て近世の資料である。C II型式は鎌倉時代以降近世迄の間に多数の資料が存在し、B II型式と同時期に普及したことが読み取れる。C型式の木製横櫛は、漆や朱で装飾された資料が多い（35点中8点）。B型式は梳櫛としての実用的な要素が強いが、C型式は実用的な要素に加えて装飾性の高い飾り道具としての存在価値を有していたと推測できる。

D型式は、室町時代以降近世迄の間に多数の資料が存在する。飛鳥時代のD - b型式1点は奈良県藤原京跡出土の木製横櫛であり、それ以降室町時代迄D - b型式の出土報告が無いため例外と想定する。安土桃山時代は一般的に女性が髪を束ねるようになる。江戸時代になると髪髪が流行し、百種類以上の髪の結い方が思案され、結髪に欠かせない髪飾りとして木製横櫛が利用された。奈良時代以降、木製横櫛の用途は髪を梳くことや解すことが主体であったが、中世以降は再び挿櫛としての役割が求められてD型式が普及したと推測できる。

#### （4）型式と出土地域の関係

型式が明確な資料を対象に、木製横櫛の型式と出土地域の関係を考察する（表3）。

A型式は18点中9点が近畿地方から出土しており、信越・北陸地方、四国地方、九州地方からは報告が無い。

B I型式は近畿地方から多数の資料が出土している。特に、奈良県の平城京跡、京都府の長岡京跡と平安京跡出土の木製横櫛の60点中29点がB I - 1 a型式である。B I型式は都を中心に普及し、貴族に利用されていた型式であると推測できる。B II型式は関東地方で多数の資料が出土している。特に、中世以降近世迄の関東地方(当時の江戸近辺)ではB II - 2 b型式が普及していたことが読み取れる。B型式の木製横櫛は各地から多数の出土報告があり、全国的に普及した型式であると言えるだろう。

C I型式は東北地方と信越・北陸地方から1点ずつ報告があり、東海地方から3点の報告がある。近畿地方以南では普及しなかった可能性がある。C II型式は四国地方と九州地方以外の地域から報告がある。

D - a型式は関東地方と信越・北陸地方から1点ずつ報告がある。D - b型式は信越・北陸地方と四国地方以外の地域から報告があり、幅広い地域で普及した型式であることが推測できる。D - c型式は東北地方からの報告しか無いので、広く普及しなかった可能性がある。

### (5) 樹種と遺物年代の関係

樹種同定によって樹種が明確な資料(84点)を対象に、木製横櫛の樹種と遺物年代の関係を考察する(表4)。木製横櫛の材として用いられた樹種は、常緑広葉樹がイスノキ、ツゲ、モッコク、ツバキ、ヒサカキ、ザイフリボクの六種類、落葉広葉樹がミズメ、カナメモチの二種類である。針葉樹はイヌガヤ、カヤの二種類である。

資料数の多いイスノキとツゲは全国各地の遺跡から出土し、古墳時代中期以降近世迄の長期間ほぼ継続的に利用されている。木製横櫛の材として用いられた主要な樹種であると言えるだろう。イスノキはマンサク科の植物で、樹高20cm前後の高木である。乾燥し易く質が密であるため、現在でも櫛材として使用される他、建築材や楽器材等に使用される。ツゲは樹高5m前後の中木で、材質が堅くて密であるため櫛材や印材として使用される。『延喜式』の「卷二十三 民部下」では、平安時代の天皇に毎年百枚以上のツゲの木製横櫛が献上されていた記録があり、高貴な身分の人物がツゲの木製横櫛を愛好して

いたと推測できる。木製横櫛の弱点は板の歪みと亀裂、そして繊細な歯部の破損なので、材は質が硬くて耐久性に優れた樹木が利用されることが多い。又、乾燥し易い樹木も使用されており、木製横櫛の材として適性を持した樹木が工人によって選択されていたのではないだろうか。

### (6) 樹種と出土地域の関係

木製横櫛の樹種と出土地域の関係を考察する(表5)。イスノキは関東地方以外の地域から報告があり、特に近畿地方から多数の資料が出土している。イスノキの生息地は本州(関東地方南部以南)と四国地方である。東北地方から報告された8点の資料は、岩手県と宮城県から出土した木製横櫛である。東北地方はイスノキの生息地では無いので、他地域から岩手県や宮城県へ運ばれたイスノキを使用したか、あるいは他地域でイスノキを使用して製作された木製横櫛が何らかの物流によって運ばれてきた可能性がある。遺物年代が明確な宮城県市川橋遺跡のイスノキの資料は古代の遺物なので、古代に宮城県と関東地方南部以南の地域を繋ぐ物流があったであろうと推測できる。

ツゲの木製横櫛は中国地方と四国地方以外の地域から報告がある。生息地以外の岩手県、宮城県、山形県から出土報告があり、この4点は木材のままか製品となって中部地方以南から物流された可能性がある。

ツバキは九州地方から1点の報告がある。ツバキの生息地は本州(青森県以南)と四国地方である。九州地方では地域内に生息する樹木を使用していた可能性がある。モッコク、ヒサカキ、ザイフリボクは東海地方からの報告しか無い。モッコクの生息地は本州(関東地方以南)と四国地方である。ヒサカキの生息地は本州と四国地方と沖縄県である。ザイフリボクの生息地は本州(新潟県と岩手県以南)と四国地方である。東海地方では特にモッコク、ヒサカキ、ザイフリボクを木製横櫛の材として使用していた可能性があるが、資料数が少ないと断定できない。

日本特有の樹種であるミズメは、東北地方の宮城県から1点の報告がある。生息地は本州(岩手県以南)と四国地方である。同じ落葉広葉樹のカナメモチの生息地は、本州(中部地方以南)と四国地方であるが、東北地

方と関東地方からの報告がある。カナメモチは木材のままか製品となって、中部地方以南から東北地方や関東地方へ物流された可能性がある。

針葉樹のカヤとイヌガヤは類似種で、材質は密である。イヌガヤは東北地方と関東地方から1点ずつ報告があり、その生息地は本州（岩手県以南）と四国地方である。カヤは岩手県から1点の報告があるが、その生息地域は本州（宮城県以南）と四国地方である。カヤは木材のままか製品となって物流された可能性がある。

## 6 まとめ

古墳時代は半円形の形態（A型式）が普及した。人物埴輪の頭部を観察すると、髪を結い、櫛のような髪飾りを挿していたことが分かる。人物埴輪が当時の人々の生活を映す資料であるならば、古墳時代の木製横櫛は髪を梳くためだけの道具では無く、髪飾りのように挿して利用されていたとも考えられる。半円形の木製横櫛は毛引きが狭く、同時期に繁栄した堅櫛の形態と類似点があることから、堅櫛と同様の要素を持っていたと推測できる。

日本最古の木製横櫛である大阪府小阪合遺跡出土木製横櫛（古墳時代前期）と光州新晶洞遺跡出土木製横櫛は、遺物年代、製作技法、形態に共通点がある。小阪合遺跡出土木製横櫛は韓国の影響を受けて、その技術を基に製作された可能性がある。

飛鳥時代になると長方形の形態（B型式）が登場する。長方形の形態は最も資料が多く、全体資料数の60%以上を占めている。その中でも、肩と毛引きが角張って親歯が内向きの形態（B II - 2 b型式）の資料が多く、次いで肩と毛引きが丸みを帯び親歯が外向きの形態（B I - 1 a型式）が多い。肩と毛引きが角張って親歯が内向きの形態（B II - 2 b型式）の殆どの資料は、大きさが平均値に近い値である。肩と毛引きが丸みを帯びる形態（B I - 1型式）は飛鳥時代以降平安時代迄を中心に普及し、角張る形態（B II - 2型式）は鎌倉時代以降江戸時代迄を中心に普及したことが分かった。飛鳥時代と奈良時代は、隋や唐から文化が齋され結髪が流行し始めた時代なので、結髪に挿すための半円形の形態と、下ろした髪を梳くための長方形の形態の両方が普及したと推測できる。

平安時代は垂髪が最も優美と考えられた時代なので、長い髪を梳くためや解すために長方形の形態が普及したと推測できる。

鎌倉時代以降江戸時代迄は、外形が細長い長方形で肩と毛引きが角張る形態（C II - 2型式）も普及した。細長い長方形で肩に丸みを帯びる形態（C I型式）は、江戸時代にのみ資料が存在する。細長い長方形の木製横櫛は装飾が施された資料が多く、実用的な要素に加えて、飾り道具としての価値があったと推測できる。

江戸時代は髪髪が流行し、木製横櫛に再び挿櫛としての機能が求められ、幅が長さの値の約二分の一で歯の奥行きが深い形態（D型式）が普及した。

木製横櫛の材には、質が硬くて耐久性に優れている樹木が選択されている。特に、乾燥し易いイスノキと、質が堅くて密なツゲは、古墳時代以降江戸時代迄の長期間に渡って木製横櫛の主要な材として使用された。東北地方や関東地方では、地域内で自生しない樹種によって製作された木製横櫛の報告があるので、他地域から木材が加工された製品が運ばれていたと推測できる。

## 7 今後の課題

本稿では木製横櫛の通史を概観するための基礎作りとして編年をおこない、各時代の人々の装飾に対する美意識の変化が木製横櫛の歴史に影響を及ぼした可能性があることを論じたが、以下の課題が残った。本稿で取り上げた多数の資料を実際に手に取ることが困難であったため、遺物の観察不足となった。又、遺物の分類の曖昧さが指摘されるだろう。今後これらの問題点を改善し、木製横櫛の通史を再検討していきたい。

## 謝 辞

最後に、本稿執筆にあたってご教示頂いた北野博司氏、ご助力頂いた井田秀和氏、日下部美紀氏、山形県埋蔵文化財センターの皆様、東北芸術工科大学の皆様に感謝申し上げたい。

グラフ1 資料数の割合

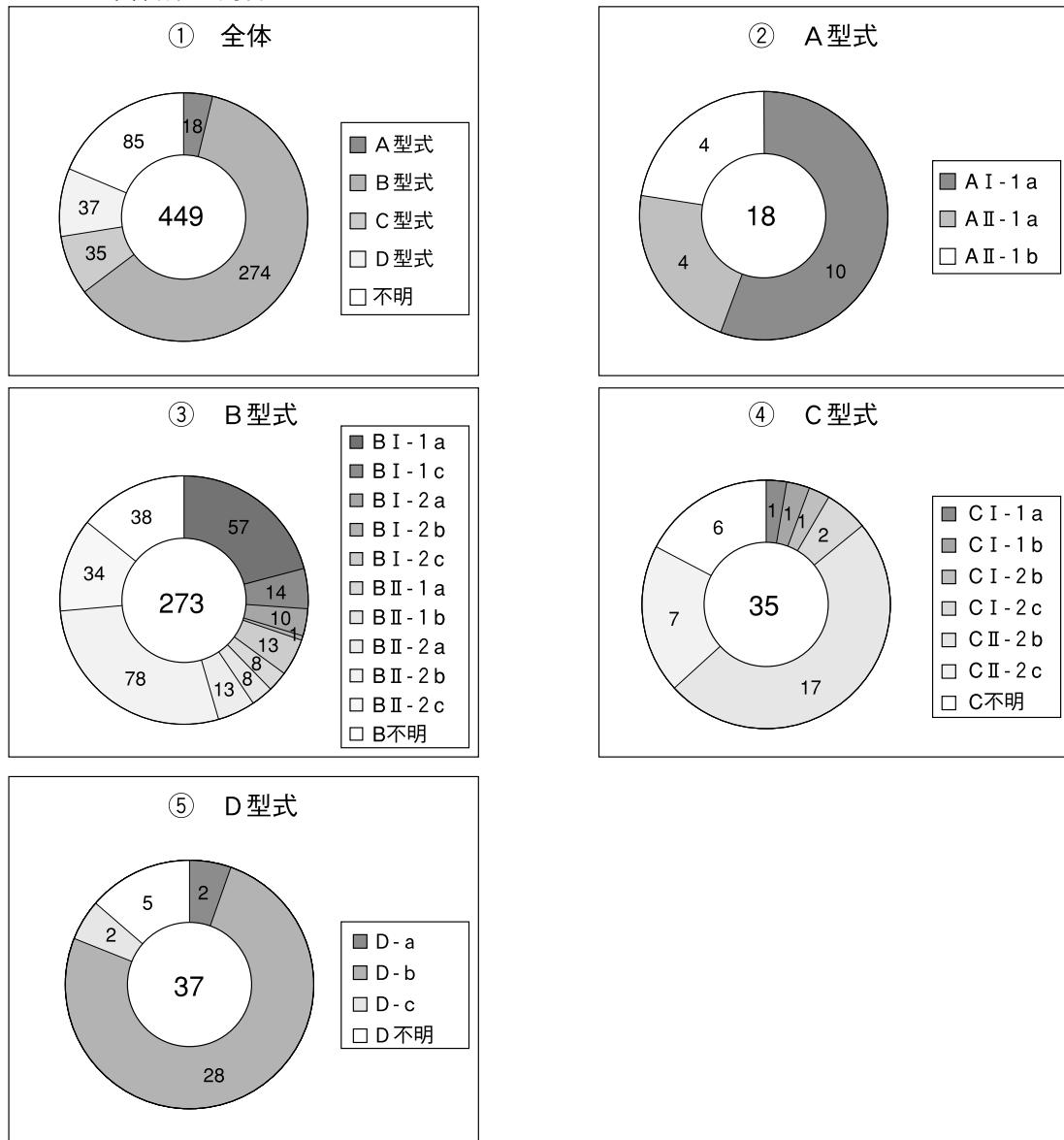


図7 各型式の大きさ

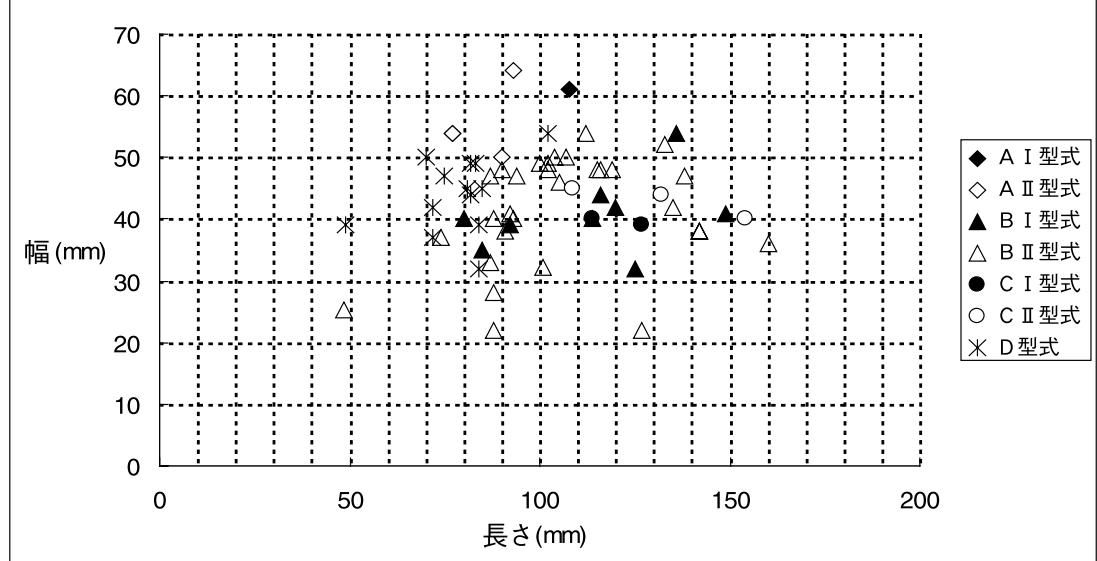


表2 木製横櫛の型式と遺物年代の関係

形式	A	A II	B I					B II					C I					C II			D		
年代	1a	1a	1b	1a	1c	2a	2b	2c	1a	1b	2a	2b	2c	1a	1b	2b	2c	2b	2c	a	1b	c	
古墳	前期	1																					
	中期	1		2																			
	後期	2	1	1																			
飛鳥			1						1		1	1										1	
奈良	2			24	3	6			3	2			1										
平安	前期			3	1					1													
	中期				1																		
	後期			1	1				4								1				1		
古代		2		4	1	1										2							
鎌倉	3		1	2						2	3	42	9							4	5	1	
室町												1	2							1			4
中世	1			1								2	3										5
近世					1				4		2		27	11	1	1	1	2	9	2	1	11	2
不明				13	1	1			1	1	2	5	5	7					2				7
合計	10	4	4	57	14	10	1	13	8	8	13	78	34	1	1	1	2	17	7	2	28	2	315

表3 木製横櫛の型式と出土地域の関係

形式	A	A II	B I					B II					C I					C II			D		
地域	1a	1a	1b	1a	1c	2a	2b	2c	1a	1b	2a	2b	2c	1a	1b	2b	2c	2b	2c	a	1b	c	
東北	1	1	1	10	2	2	1	3	2	1	5	5	7						1		4	2	
関東	3			2					2		3	3	47	9						7	5	1	4
信越・北陸			3		2						1	2							1	1		1	
東海	1		1	5	4	1				1	1	3	2	1				1	1	4	2	9	
近畿	5	3	1	33	6	5			6	5	1	2	2	1					2			5	
中国			1		1							9	8						2			3	
四国				1								3											
九州				3	1				2	1	2	2	8	5									3
合計	10	4	4	57	14	10	1	13	8	8	13	78	34	1	1	1	2	17	7	2	28	2	315

表4 木製横櫛の樹種と遺物年代の関係

樹種	落葉広葉樹						落葉広葉樹						針葉樹			
年代	イスノキ	ツゲ	モッコク	ツバキ	ヒサカキ	ザイフリボク	ミズメ	カナメモチ	イヌガヤ	カヤ						
古墳	前期															
	中期	2	1													
	後期															1
飛鳥																
奈良	15		5													1
平安	前期															
	中期															
	後期	3	1				1									1
古代	1	2														
鎌倉																
室町																
中世	3	1														
近世	10	2	2													1
不明	16	7					1	1					3	1		
合計	52	19	2	1	1	1	1	1	1	4	2	1				84

表5 木製横櫛の樹種と出土地域の関係

樹種	落葉広葉樹						落葉広葉樹						針葉樹			
地域	イスノキ	ツゲ	モッコク	ツバキ	ヒサカキ	ザイフリボク	ミズメ	カナメモチ	イヌガヤ	カヤ						
東北																
関東																
信越・北陸																
東海																
近畿																
中国																
四国																
九州																
合計																

表1 木製横櫛一覧

No.	都道府県	遺跡名	遺物年代	型式	幅	長さ	山	厚み	歯/1cm	樹種	塗り	地点	文献No.
1	青森	大平	—	B I	18.0	61.0	—	—	—	—	—	堅穴住居	2
2	岩手	扇畠 I	中世	B I -1a	40.0	80.0	—	7.0	—	ツゲ	—	—	1・3
3		志羅山	近世	不明	32.0	(55.0)	—	7.4	6.0	カヤ	—	—	4
4		柳之御所	平安後期	B II -1a	33.0	(100.0)	—	9.0	7.0	—	—	—	
5			平安後期	B II -1a	(33.0)	(68.0)	—	9.0	10.0	—	—	—	
6			不明	37.0	(39.0)	—	9.0	11.0	—	イスノキ	—	井戸	
7			—	B	35.0	(53.0)	—	9.0	13.0	イスノキ	—	—	
8			—	B	34.0	(76.0)	—	9.0	12.0	ツゲ	—	—	
9			不明	27.0	(30.0)	—	7.0	—	—	イスノキ	—	—	
10	宮城	山王	—	D-b	50.0	70.0	10.5	14.0	7.0	—	—	—	5・6・7
11			—	B I -1a	41.0	149.0	—	10.0	11.0	—	—	井戸	8・9
12			—	B I -1a	42.0	120.0	—	10.0	10.0	—	—	井戸	
13	八幡地区	—	—	B II -2a	48.0	116.0	—	7.0	9.0	—	—	井戸	
14			—	B II -2a	41.0	(69.0)	—	10.0	8.0	—	—	井戸	
15			—	B II -2a	40.0	(58.0)	—	9.0	8.0	—	—	井戸	
16	八幡地区2	古墳後期	A I -1a	61.0	108.0	—	10.0	6.0	—	—	—	水場	
17		古墳後期	不明	(58.0)	(25.0)	—	11.0	5.0	—	—	—	水場	
18		古墳後期	不明	(28.0)	(34.0)	—	12.0	8.0	—	—	—	水場	
19	市川橋	古墳後期	A II -1b	64.0	93.0	15.0	13.0	10.0	—	イヌガヤ	—	—	10
20		平安	B I -1c	(24.0)	(47.0)	—	—	7.0	—	ミズメ	—	—	
21		古代	不明	39.0	34.0	—	8.0	—	—	—	—	—	
22		古代	A II -1a	45.0	(60.0)	—	8.0	—	—	イスノキ	—	—	
23		古代	B I -1a	42.0	(88.0)	—	8.0	—	—	—	—	—	
24		古代	不明	41.0	(39.0)	—	8.0	—	—	—	—	溝	
25		古代	B II -2	(44.0)	(25.0)	—	8.0	—	—	—	—	—	
26		古代	不明	(43.0)	41.0	—	9.0	—	—	—	—	溝	
27		古代	不明	(27.0)	(29.0)	—	8.0	—	—	—	—	溝	
28		古代	B I -2a	60.0	(39.0)	—	6.0	—	—	—	—	—	
29		奈良	B I -1a	44.0	(128.0)	—	8.0	—	—	ツゲ	—	—	
30		奈良	B I -1a	51.0	(78.0)	—	9.0	—	—	カナメモチ	—	—	
31		奈良	B I -2a	46.0	(96.0)	—	8.0	—	—	イスノキ	—	—	
32	大宮	—	B II -2c	38.0	142.0	—	9.0	12.0	—	—	—	—	
33	郡山	奈良	B II -2a	—	—	—	—	—	—	—	井戸	—	11
34	伊治城	平安	B I -2c	(13.0)	(70.0)	—	7.0	8.0	—	—	—	—	12
35	中田南	—	B I -1a	(26.0)	(53.0)	—	11.0	11.0	—	イスノキ	黒漆	溝	13
36	仙台城	近世	B II -2b	(39.0)	(90.0)	—	5.0	10.0	—	—	—	—	14
37		近世	不明	(25.0)	35.0	—	10.0	11.0	—	—	—	—	
38		近世	B II -2c	(30.0)	(32.0)	—	6.0	5.0	—	—	—	—	
39		近世	B II -2c	(22.0)	(31.0)	—	9.0	7.0	—	—	—	—	
40		近世	不明	(12.0)	(36.0)	—	11.0	10.0	—	—	—	—	
41	二の丸	近世	不明	(40.0)	(23.0)	—	12.0	5.0	—	—	—	—	
42		近世	不明	(46.0)	(48.0)	—	14.0	3.0	—	—	—	—	
43		近世	B II -2b	55.0	(54.0)	—	—	7.0	—	—	—	—	
44		近世	B II -2b	44.0	(50.0)	—	—	9.0	—	—	—	—	
45		近世	B II -2b	(43.0)	110.0	12.0	8.0	10.0	—	—	—	—	
46		近世	B II -2c	(40.0)	(103.0)	—	12.0	7.0	—	—	—	—	
47		近世	不明	(22.0)	100.0	10.0	13.0	—	—	—	—	—	
48		近世	B II -2c	(60.0)	120.0	7.0	12.0	14.0	—	—	—	—	
49		近世	不明	(21.0)	(42.0)	—	5.0	—	—	黒漆	—	—	
50	一本柳	—	不明	(43.0)	(35.0)	—	9.0	—	—	イスノキ	—	井戸	15
51			B II -2c	42.0	(67.0)	—	9.0	5.0	—	イスノキ	—	井戸	
52	多賀城	近世	B	(15.0)	(24.0)	—	5.0	11.0	—	—	—	井戸	
53	秋田	秋田城	奈良	B I -1a	44.0	(132.0)	—	6.0	7.0	—	—	—	16
54	山形	大槻	鎌倉	不明	44.0	(25.0)	—	9.5	—	—	漆	土壌	17・18
55			鎌倉	C II -2b	29.0	(25.0)	—	5.0	—	—	漆	溝	
56			鎌倉	不明	43.0	(48.0)	—	10.0	—	—	—	—	
57			鎌倉	不明	(28.0)	(32.0)	—	7.0	5.0	—	—	—	
58			鎌倉	不明	(15.0)	(46.0)	—	6.0	9.0	—	—	—	
59	上高田	奈良	B	41.0	(45.0)	—	7.0	7.0	—	—	—	河川	19
60		奈良	B	(25.0)	(46.0)	—	5.0	8.0	—	—	—	河川	
61		奈良	不明	37.0	(70.0)	—	9.0	—	—	—	—	河川	
62	米沢城	近世	B I -2c	(31.0)	(60.0)	—	13.0	12.0	—	—	—	—	20・21・22
63		南三の丸	近世	C I -1b	40.0	114.0	—	10.0	4.0	—	—	—	溝
64		東二の丸	近世	D-c	39.0	49.0	14.0	10.0	4.0	—	—	—	溝
65		近世	D-c	36.0	(33.0)	—	5.0	5.0	—	—	—	—	
66	鶴ヶ岡城	近世	D	(40.0)	71.0	11.0	11.0	8.0	—	—	—	溝	23
67		近世	B II -2b	52.0	133.0	20.0	5.0	7.0	—	黒漆	井戸		
68		近世	D-b	45.0	78.0	10.0	8.5	8.0	—	黒漆	土壌		
69	沼田	平安	B II -2c	(47.0)	(105.0)	—	12.0	4.0	—	—	土壌	—	24
70	沢田	近世	D-b	54.0	(43.0)	—	5.0	8.0	ツゲ	—	土壌	—	25
71	亀ヶ崎城	近世	B II -1b	—	120.0	18.0	—	—	—	黒漆	—	—	26
72	荒川12	—	不明	42.0	(65.0)	—	9.0	5.0	—	—	—	溝	27
73	古志田東	平安	B I -1a	35.0	(60.0)	—	9.0	8.0	カバノキ属	漆	土壌		
74		平安	B I -2c	(42.0)	(31.0)	—	10.0	7.0	カバノキ属	—	河川		
75	大在家	古代	B I -1a	(48.0)	49.0	—	8.0	9.0	—	—	—		
76		古代	B II -2a	(31.0)	(42.0)	—	7.0	11.0	—	—	—		
77	馬上台	平安	B I -2b	39.0	(61.0)	—	6.5	—	—	—	—	—	113
78	福島	平安後期	B I -1c	35.0	85.0	—	7.0	9.0	カンバ属	—	—	—	28
79	戸田条里	平安後期	B I	(9.0)	(96.0)	—	4.5	—	—	黒・赤漆	—	—	29
80	横山B	—	D-b	(29.0)	(35.0)	—	5.0	5.0	—	—	井戸		
81	茨城	油内	平安後期	B I -1a	(19.0)	(73.0)	—	8.0	12.0	—	—	井戸	30
82		白石	奈良	B	(38.0)	(77.0)	—	—	4.0	—	—	住居	31
83	群馬	国分境	—	B II -1b	(76.0)	(92.0)	—	—	5.0	イヌガヤ	—	—	
84	埼玉	小敷田	—	不明	(38.0)	(23.0)	—	10.0	8.0	カナメモチ	—	—	33
85			—	B II -2c	47.0	138.0	—	10.0	10.0	カナメモチ	—	—	
86			—	不明	(25.0)	(23.0)	—	9.0	13.0	カナメモチ	—	—	
87			—	不明	(53.0)	(49.0)	—	9.0	9.0	—	—	—	
88	千葉	小田部新地	中世	D-b	(13.0)	(22.0)	—	4.7	—	—	—	—	34
89	東京	筑前福岡藩黒田家屋敷	近世	B II -2b	25.4	48.5	—	5.0	7.0	—	黒漆・金	—	35
90		和泉伯太藩上屋敷	近世	B II -2b	46.0	105.0	19.0	8.0	8.0	—	黒漆	井戸	36
91			近世	B II -2b	32.2	101.0	12.0	7.9	5.0	—	黒漆	井戸	
92			近世	B	(15.0)	(103.5)	19.0	9.4	6.0	—	—	井戸	

93	港区91	近世	B	34.5	(140.0)	—	—	5.0	—	漆・金	—	37
94		近世	C II -2b	(20.0)	(75.0)	—	—	6.0	—	朱	土壤	
95		近世	B II -2b	(43.0)	128.0	18.0	—	6.0	—	—	土壤	
96		近世	B II -2b	29.0	(88.0)	—	—	6.0	—	—	土壤	
97		近世	B II -2b	44.0	(108.0)	—	—	6.0	—	—	土壤	
98		近世	C II -2b	(32.0)	(64.0)	—	—	5.0	—	—	土壤	
99		近世	C II -2b	(30.0)	(36.0)	—	—	4.0	—	—	土壤	
100		近世	不明	(50.0)	22.0	—	—	3.0	—	—	土壤	
101	葛西城	中世	D-b	42.0	72.0	18.0	10.0	3.0	—	—	—	
102		中世	D-b	(42.0)	(78.0)	14.0	13.0	9.0	—	—	—	
103		中世	D-b	49.0	(28.0)	—	12.0	10.0	—	—	—	
104	芝神谷町屋敷	近世	B I -2c	(32.0)	(68.0)	—	9.0	5.0	—	黒漆・金	—	38
105		近世	C II -2b	(40.0)	(77.0)	—	7.0	3.0	—	—	—	
106		近世	B II -2b	(49.0)	(57.0)	—	4.0	4.0	—	—	—	
107	神奈川 蔵屋敷	中世	不明	(38.0)	(32.0)	—	10.0	—	—	—	—	
108	研修道場用地	—	C	42.0	110.0	6.0	10.0	5.0	—	黒漆	—	
109		—	不明	(46.0)	(76.0)	—	9.0	5.0	—	黒漆	—	
110		—	C	(39.0)	(64.0)	—	11.0	7.0	—	黒漆	—	
111		—	不明	(27.0)	(30.0)	—	8.0	9.0	—	黒漆	—	
112		—	不明	(28.0)	(20.0)	—	4.0	6.0	—	黒漆	—	
113		—	不明	(37.0)	(18.0)	—	8.0	7.0	—	黒漆	—	
114		—	不明	(34.0)	(35.0)	—	9.0	6.0	—	黒漆	—	
115		—	不明	(42.0)	(51.0)	—	8.0	8.0	—	黒漆	—	
116		—	不明	(44.0)	(26.0)	—	10.0	9.0	—	黒漆	—	
117		—	不明	(21.0)	(20.0)	—	7.0	3.0	—	黒漆	—	
118	千葉地東	鎌倉	B II -2b	(41.0)	(32.0)	—	9.0	15.0	—	—	—	
119		鎌倉	B II -2b	(38.0)	(62.0)	—	8.0	10.0	—	—	—	
120		鎌倉	B II -2b	32.0	(84.0)	—	7.0	11.0	—	—	—	
121		鎌倉	B II -2b	(42.0)	(63.0)	—	9.0	10.0	—	—	—	
122		鎌倉	B	40.0	(34.0)	—	10.0	11.0	—	—	—	
123		鎌倉	B II -2b	44.0	(64.0)	—	10.0	13.0	—	—	—	
124		鎌倉	B II -2	(36.0)	(90.0)	—	10.0	11.0	—	—	—	
125		鎌倉	B II -2b	41.0	92.0	—	9.0	11.0	—	—	—	
126		鎌倉	B II -2a	43.0	(88.0)	—	10.0	11.0	—	—	—	
127		鎌倉	B II -2b	(36.0)	94.0	5.0	10.0	11.0	—	—	—	
128		鎌倉	B II -2b	(40.0)	114.0	7.0	10.0	11.0	—	—	—	
129		鎌倉	B II -2b	38.0	91.0	4.0	10.0	11.0	—	—	—	
130		鎌倉	B II -2c	(34.0)	62.0	6.0	10.0	11.0	—	—	—	
131		鎌倉	B II -2b	40.0	93.0	4.0	9.0	11.0	—	—	—	
132		鎌倉	B II -2	(22.0)	(60.0)	—	10.0	13.0	—	—	—	
133		鎌倉	B II -2	(31.0)	(28.0)	—	7.0	10.0	—	—	—	
134		鎌倉	C	(30.0)	(64.0)	—	8.0	4.0	—	—	—	
135		鎌倉	B II -2b	(46.0)	(72.0)	—	10.0	8.0	—	—	—	
136		鎌倉	B II -2b	(38.0)	(36.0)	—	8.0	5.0	—	—	—	
137		鎌倉	C II -2c	(40.0)	(67.0)	—	9.0	4.0	—	—	—	
138		鎌倉	B II -2b	(42.0)	(32.0)	—	9.0	5.0	—	—	—	
139		鎌倉	B	(39.0)	(38.0)	—	10.0	3.0	—	—	—	
140		鎌倉	C	(40.0)	(19.0)	—	8.0	4.0	—	—	—	
141		鎌倉	B II -2b	(41.0)	(38.0)	—	5.0	6.0	—	—	—	
142		鎌倉	B	42.0	(86.0)	—	10.0	5.0	—	—	—	
143		鎌倉	D-a	40.0	(17.0)	—	8.0	4.0	—	—	—	
144		鎌倉	B II -2b	40.0	(63.0)	—	9.0	5.0	—	—	—	
145		鎌倉	B II -2b	(38.0)	(104.0)	—	6.0	6.0	—	—	—	
146		鎌倉	B II -2c	(24.0)	(48.0)	—	8.0	5.0	—	—	—	
147		鎌倉	B II -2b	(36.0)	(46.0)	—	10.0	8.0	—	—	—	
148		鎌倉	B	30.0	(46.0)	—	9.0	8.0	—	—	—	
149		鎌倉	B II -2c	(37.0)	(57.0)	—	9.0	8.0	—	—	—	
150		鎌倉	A I -1a	(20.0)	(37.0)	—	8.0	7.0	—	—	—	
151		鎌倉	B	(42.0)	(96.0)	—	9.0	9.0	—	—	—	
152		鎌倉	C II -2c	(39.0)	(54.0)	—	12.0	3.0	—	黒漆	—	
153		鎌倉	B II -2c	(42.0)	(42.0)	—	7.0	7.0	—	—	—	
154		鎌倉	B II -2b	(40.5)	(48.0)	—	9.0	7.0	—	—	—	
155		鎌倉	C II -2b	(24.0)	(30.0)	—	9.0	3.0	—	—	—	
156		鎌倉	B II -1b	(45.0)	(60.0)	—	9.0	7.0	—	—	—	
157		鎌倉	B II -2c	(21.0)	(54.0)	—	7.5	9.0	—	—	—	
158		鎌倉	B	(45.0)	51.0	—	7.5	8.0	—	—	—	
159		鎌倉	B II -2b	(36.0)	(45.0)	—	10.0	8.0	—	—	—	
160		鎌倉	B II -1b	(40.0)	(57.0)	—	9.0	7.0	—	—	—	
161		鎌倉	B II -2	(33.0)	(54.0)	—	8.0	8.0	—	—	—	
162		鎌倉	B II -2a	(37.5)	(42.0)	—	7.5	9.0	—	—	—	
163		鎌倉	B	(39.0)	(42.0)	—	9.0	9.0	—	—	—	
164		鎌倉	B II -2b	(36.0)	(39.0)	—	7.0	9.0	—	—	—	
165		鎌倉	C II -2c	(33.0)	(48.0)	—	8.0	4.0	—	—	—	
166		鎌倉	B II -2b	(42.0)	(27.0)	—	8.0	5.0	—	—	—	
167		鎌倉	A I -1a	(30.0)	(84.0)	—	9.0	8.0	—	—	—	
168		鎌倉	B II -2b	(45.0)	(75.0)	—	9.0	9.0	—	—	—	
169		鎌倉	B	(57.0)	(24.0)	—	9.0	8.0	—	—	—	
170		鎌倉	B II -2a	(55.5)	(39.0)	—	10.0	10.0	—	—	—	
171		鎌倉	C II -2c	(46.5)	(57.0)	—	13.5	2.0	—	—	—	
172		鎌倉	C II -2b	(45.0)	(45.0)	—	12.0	3.0	—	—	—	
173		鎌倉	B II -2b	(33.0)	114.0	6.0	7.5	8.0	—	—	—	
174		鎌倉	B	(48.0)	(60.0)	—	9.0	11.0	—	—	—	
175		鎌倉	B II -2b	(36.0)	(60.0)	—	7.5	9.0	—	—	—	
176		鎌倉	B I -1a	(39.0)	(57.0)	—	10.0	7.0	—	—	—	
177		鎌倉	B II -2b	(42.0)	(62.0)	—	9.0	5.0	—	—	—	
178		鎌倉	B II -2b	(57.0)	(42.0)	—	9.0	5.0	—	—	—	
179		鎌倉	B II -2	(39.0)	(45.0)	—	10.0	10.0	—	—	—	
180		鎌倉	B II -2b	(42.0)	(57.0)	—	9.0	5.0	—	—	—	
181		鎌倉	B II -2b	(39.0)	(24.0)	—	7.0	5.0	—	—	—	
182		鎌倉	A I -1a	(27.0)	(36.0)	—	6.0	10.0	—	—	—	
183		鎌倉	B	(42.0)	(48.0)	—	10.0	4.0	—	—	—	
184		鎌倉	B II -2	(37.5)	(39.0)	—	9.0	8.0	—	—	—	
185		鎌倉	B II -2b	(42.0)	(48.0)	—	10.0	8.0	—	—	—	
186		鎌倉	B II -2b	(36.0)	(90.0)	—	6.0	7.0	—	—	—	
187		鎌倉	B II -2b	(45.0)	66.0	—	10.0	8.0	—	—	—	

188		鎌倉	B II -2b	33.0	87.0	4.5	9.0	8.0	—	—	—	—	
189		鎌倉	B II -2b	39.0	(69.0)	—	7.5	7.0	—	—	—	—	
190		鎌倉	C II -2c	(33.0)	(33.0)	—	10.0	3.0	—	—	—	—	
191		鎌倉	B II -2c	(30.0)	(54.0)	—	6.0	8.0	—	—	—	—	
192		鎌倉	B II -2c	(38.0)	(60.0)	—	7.5	10.0	—	—	—	—	
193		鎌倉	B	39.0	(60.0)	—	7.0	9.0	—	—	—	—	
194		鎌倉	B II -2b	(30.0)	(42.0)	—	8.0	7.0	—	—	—	—	
195		鎌倉	B II -2b	(36.0)	(69.0)	—	8.0	8.0	—	—	—	—	
196		鎌倉	B II -2b	33.0	(72.0)	—	6.0	8.0	—	—	—	—	
197		鎌倉	B II -2b	(30.0)	(57.0)	—	6.0	7.0	—	—	—	—	
198		鎌倉	B II -2b	(38.0)	(45.0)	—	8.0	9.0	—	—	—	—	
199		鎌倉	B II -2c	(33.0)	(57.0)	—	8.0	5.0	—	—	—	—	
200		鎌倉	C II -2b	(33.0)	(21.0)	—	7.0	4.0	—	—	—	—	
201		鎌倉	B II -2b	(36.0)	(48.0)	—	9.0	7.0	—	—	—	—	
202	山梨	塩川	近世	B I -2c	(26.0)	(64.0)	—	4.0	12.0	ツゲ	—	墓壙	39
203	新潟	佐渡金山	—	B II -2c	47.0	87.0	—	6.0	6.0	—	—	—	32
204	富山	梅原胡摩堂	近世	D-a	44.0	82.0	12.0	11.0	4.0	—	—	—	57
205		近世	C I -2c	38.0	(99.0)	—	11.0	4.0	—	—	—	—	
206		近世	B II -2c	36.0	(84.0)	—	10.0	9.0	—	—	—	—	
207	石川	漆町 I	—	B I -1a	42.0	(100.0)	—	10.5	—	—	—	—	58
208		—	B I -1a	42.0	(33.0)	—	10.0	—	—	—	—	—	
209	東大寺領横江庄 II	平安	B I -2a	—	—	—	—	—	—	—	—	—	59
210	戸水遺跡群 大西 I	—	B I -1a	51.0	(69.0)	—	7.5	9.0	—	—	—	—	60
211		不明	(36.0)	(30.0)	—	7.0	10.0	イスノキ	—	—	—	—	
212		B-2	(48.0)	(51.0)	—	7.5	9.0	ツゲ	—	—	—	—	
213		不明	42.0	(30.0)	—	12.0	10.0	イスノキ	—	—	—	—	
214		B I -2a	45.0	(93.0)	—	7.5	10.0	—	—	—	—	—	
215	縄手	室町	C II -2b	38.0	(135.0)	—	8.5	4.0	—	赤漆	—	—	
216		室町	B II -2b	—	96.0	—	7.0	12.0	—	—	—	—	
217		—	不明	36.5	(72.5)	—	4.0	5.0	—	—	—	—	
218	三重	杉垣内	古代	B I -1a	44.0	116.0	—	—	—	—	—	—	1
219		斎宮	平安	B I -1c	39.0	92.0	—	—	—	—	—	—	1
220		平安	B	43.0	(60.0)	—	—	—	—	—	—	—	
221		平安	B II -1b	(28.0)	(104.0)	—	—	—	—	—	—	—	
222		大垣内	B	(29.0)	(58.0)	—	—	—	—	—	—	—	1
223	四天王寺	平安	B I -1c	—	—	—	—	—	—	仏像体内	—	1	
224		平安	B I -1c	—	—	—	—	—	—	仏像体内	—		
225		平安	B I -2a	—	—	—	—	—	—	仏像体内	—		
226	上ノ垣外	鎌倉	B I -1a	33.0	(59.0)	—	—	—	—	—	—	—	1
227	赤堀城	室町	D-b	49.0	83.0	—	—	—	—	—	—	—	1
228		室町	D-b	—	84.0	—	—	—	—	—	—	—	
229	小判田	中世	B II -2c	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
230	六大A	古墳中期	A II -1b	50.0	90.0	—	—	—	ツゲ	—	—	—	1
231		—	B II -2c	(28.0)	66.0	4.0	9.0	10.0	—	—	—	—	
232	静岡	神明原・元宮川	古墳後期	A I -1a	—	—	—	—	—	—	—	—	40
233		駿府城	B II -2b	22.0	88.0	9.0	12.0	3.0	—	—	—	—	41
234		—	D-b	37.0	72.0	10.0	10.0	4.0	—	—	—	—	
235		不明	34.0	(42.0)	—	11.0	15.0	—	—	—	—	—	
236	領家 II・梅橋古墳	—	B II -2b	(34.0)	(60.0)	—	9.5	5.0	ツゲ 黒・赤漆	—	—	42	
237	池ヶ谷	—	B I -1a	41.0	(13.0)	—	8.0	9.0	ヒサガキ	—	—	43	
238		B I -1a	40.0	(78.0)	—	7.0	8.0	イスノキ	—	—	—		
239		B I -1c	37.0	(50.0)	—	9.0	10.0	イスノキ	—	—	—		
240		B II -2a	39.0	(28.0)	—	8.0	9.0	イスノキ	—	—	—		
241	内荒	—	B I -1a	(40.5)	150.0	—	12.0	8.0	—	—	—	44	
242		—	不明	(39.0)	(75.0)	—	12.0	8.0	—	—	—		
243		—	C II -2b	(39.0)	(54.0)	—	12.0	3.0	—	—	—		
244		—	不明	(55.5)	(19.5)	—	8.0	7.0	ザイフリボク 漆	—	—		
245	御殿川流域遺跡群	近世	D-b	42.0	(84.0)	15.0	22.0	3.0	—	—	川岸	45・46	
246		近世	D	(21.0)	(76.0)	—	22.0	11.5	—	—	川岸		
247		中世	D	(26.0)	(62.0)	—	15.0	7.0	—	—	川岸		
248		近世	D-b	(33.0)	105.0	33.0	16.0	3.0	—	—	川岸		
249		近世	D	(26.0)	(61.0)	41.0	15.0	11.0	—	漆	川岸		
250		中世	D-b	39.0	84.0	—	—	3.0	—	—	川岸		
251		近世	不明	35.0	(71.0)	—	22.0	9.0	—	—	川岸		
252		近世	D-b	32.0	84.0	15.0	22.0	10.0	—	—	川岸		
253		近世	C II -2b	45.0	108.5	41.0	20.0	11.0	—	—	川岸		
254		近世	C II -2c	34.0	(104.0)	—	10.0	3.0	イスノキ	—	—		
255		近世	C I -1a	36.0	(88.5)	—	10.0	3.0	モッコク	—	—		
256		近世	C I -2c	32.0	(71.0)	—	6.0	7.0	イスノキ	—	—		
257		近世	C I -2b	39.0	127.0	12.0	8.0	4.0	モッコク	—	—		
258		近世	C II -2b	27.0	(128.0)	—	8.0	4.0	イスノキ	—	—		
259		近世	C II -2b	(40.5)	(77.0)	—	10.0	4.0	イスノキ	—	—		
260		近世	C II -2c	40.0	154.0	14.0	8.0	4.0	イスノキ	—	—		
261	愛知	朝日西	D-b	47.0	75.0	12.0	12.0	4.0	—	—	—	65	
262		吉田城 II	近世	不明	(42.0)	(39.0)	—	9.0	7.0	—	—	—	66
263		近世	B II -2b	22.0	127.0	6.0	11.0	5.0	—	黒漆	—		
264	清州城下町	室町	D-b	—	—	—	—	—	—	—	—	1	
265	奈良	平城京右京八条一坊十一坪	N	B I -1a	(22.0)	(45.0)	—	—	9.0	—	—	47・48・49	
266		N	B I -2a	(36.0)	33.0	—	—	8.0	—	—	—	50・51	
267		N	B I -1a	(46.0)	(78.0)	—	—	8.0	—	—	—	116	
268		N	B I -2a	47.0	(86.0)	—	—	9.0	—	—	—		
269		N	不明	49.0	(48.0)	—	—	8.0	—	—	—		
270	左京八条一坊十三・十四坪	N	B I -2c	52.0	(13.7)	—	8.0	8.0	ツゲ	—	井戸		
271		N	B I -1c	31.0	(9.0)	—	5.9	—	イスノキ	—	井戸		
272		N	B I -1a	—	(7.1)	—	8.4	—	イスノキ	—	井戸		
273		N	B I -1a	(34.0)	(38.0)	—	5.8	—	ツゲ	—	井戸		
274		N	B I -1a	(28.0)	(78.0)	—	4.7	7.0	ツゲ	—	井戸		
275		N	B I -2a	—	(52.0)	—	4.2	—	イスノキ	—	井戸		
276		N	B I -1a	—	(62.0)	—	6.8	—	イスノキ	—	井戸		
277		N	不明	(35.0)	(50.0)	—	5.9	9.0	イスノキ	—	井戸		
278		N	不明	(18.0)	(34.0)	—	3.7	12.0	イスノキ	—	井戸		
279	左京九条三坊十坪	N	B I -1a	(26.0)	(29.0)	—	4.0	12.0	イスノキ	—	—		
280		N	B I -1a	(38.5)	(55.0)	—	6.0	9.0	イスノキ	—	—		
281		N	B I -1a	(40.5)	(54.0)	—	8.0	9.0	イスノキ	—	—		
282		N	B I -1a	(42.5)	(78.0)	—	8.0	11.0	イスノキ	—	—		

283		奈良	B I -2a	(52.0)	146.0	—	9.0	10.0	イスノキ	—	—
284	左京三条一坊七坪	奈良	B I	(10.0)	(17.5)	—	6.0	12.0	イスノキ	—	—
285	左京八条三坊	奈良	B II -1a	—	—	—	—	—	ツゲ	—	溝溝
286		奈良	B I -1a	—	—	—	—	—	イスノキ	—	—
287	左京二条二坊・三条二坊	奈良	B I -1a	54.0	136.0	—	8.0	7.0	—	—	—
288		奈良	A I -1a	(32.0)	(60.0)	—	7.0	10.0	—	—	—
289	平城宮	奈良	B II -1a	—	—	—	—	—	—	—	1
290		奈良	B I -1a	—	—	—	—	—	—	—	—
291	上之宮	古墳後期	A II -1a	54.0	77.0	—	—	—	—	—	1
292	藤原京	飛鳥	D-b	49.0	82.0	—	—	—	—	—	1
293		飛鳥	B	53.0	(80.0)	—	—	—	—	—	—
294	藤原宮	飛鳥	B II -2a	54.5	(122.0)	—	—	—	—	—	1
295	前裁	古代	B I -1a	—	—	—	—	—	—	—	1
296		平安中期	B I -1c	—	—	—	—	—	—	—	—
297	京都	長岡京	奈良	B I -1a	38.0	(126.0)	—	—	—	—	—
298		奈良	B I -1a	32.0	(125.0)	—	—	—	—	—	—
299		奈良	B I -2c	32.0	125.0	—	—	—	—	—	—
300	左京北一条三坊二町	奈良	B I -1a	40.0	(88.0)	—	6.0	8.0	—	—	—
301		奈良	B I -2a	44.0	(56.0)	—	8.0	9.0	—	—	—
302	右京 井ノ内	奈良	B I -1a	(33.0)	(48.0)	—	7.0	7.0	—	—	—
303		奈良	不明	(19.0)	(21.0)	—	3.0	10.0	—	—	—
304		奈良	B I -1a	(13.0)	(147.0)	—	7.0	8.0	—	—	—
305		奈良	B I -1c	46.0	(45.0)	—	7.0	9.0	—	—	—
306		奈良	B I -1a	(42.0)	—	7.0	9.0	—	—	—	—
307		奈良	B I -1c	(21.0)	(48.0)	—	4.0	9.0	—	—	—
308		奈良	B I -1a	(25.0)	(60.0)	—	5.0	7.0	—	—	—
309		奈良	不明	(12.0)	(36.0)	—	4.0	8.0	—	—	—
310		奈良	不明	(21.0)	(81.0)	—	6.0	8.0	—	—	—
311		奈良	B I -2c	(19.0)	(37.0)	—	7.0	9.0	—	—	—
312	平安京右京六条一坊	平安後期	B I -1	(48.0)	(92.0)	—	8.0	4.0	イスノキ	—	52·53·54
313		平安後期	B II -1a	(32.0)	(44.0)	—	6.0	6.0	イスノキ	—	1
314		平安後期	B II -1a	24.0	(44.0)	—	4.0	7.0	イスノキ	—	—
315		平安後期	不明	(12.0)	(44.0)	—	7.0	7.0	ツゲ	—	—
316	右京三条二坊	平安前期	B I -1a	39.0	(10.6)	—	—	—	—	—	—
317	左京八条三坊二町	平安	B I -1a	43.0	(63.0)	—	—	—	—	—	—
318		平安	B I -1a	40.0	(50.0)	—	—	—	—	—	—
319		平安	B I -2c	36.0	(88.0)	—	—	—	—	—	—
320	左京八条三坊二町二次	平安	B I -1a	44.0	(62.0)	—	7.0	10.0	—	—	—
321		平安	B I -1a	(40.0)	(50.0)	—	7.0	10.0	—	—	—
322		平安	B I -2c	(38.0)	(88.0)	—	7.0	14.0	—	—	—
323	左京五条一坊	平安前期	B I -1a	40.0	114.0	—	—	—	—	—	—
324	西市	平安前期	B II -2b	28.0	88.0	—	—	—	—	—	—
325		平安前期	B I -1a	38.0	(99.0)	—	—	—	—	—	—
326		平安前期	B I -1c	41.0	(116.0)	—	—	—	—	—	—
327	西寺	平安前期	B II -1a	35.0	(96.0)	—	—	—	—	—	—
328	二帖半敷町	近世	D-b	(41.0)	81.0	—	—	—	—	—	1
329	西洞院通塩小路	近世	D-b	45.0	81.0	—	—	—	—	—	1
330	竹田内畠町	近世	D-b	54.0	102.0	—	—	—	漆	—	1
331		近世	B II -2b	54.0	112.0	—	—	—	漆	—	—
332	内里八丁	飛鳥	B II -1b	48.0	90.0	—	12.0	6.0	—	—	55
333	大阪	川北	B I -1a	(21.0)	(57.0)	—	8.0	7.0	—	—	56
334		小阪合	古墳前期	A I -1a	51.0	(89.0)	—	—	—	—	1
335		今城	奈良	A I -1a	—	—	—	—	—	—	1
336		平安	B I -1a	—	—	—	—	—	—	—	—
337		平安	B I -1a	—	—	—	—	—	—	—	—
338		平安	B I -1a	—	—	—	—	—	—	—	—
339	梶原南	奈良	B I -1a	25.0	(66.0)	—	—	—	—	—	1
340	濱池	中世	A I -1a	—	81.0	—	—	—	—	—	1
341	境環濠都市	近世	C II -2b	44.0	132.0	—	—	—	—	—	1
342	滋賀	穴太	飛鳥	A II -1a	—	—	—	—	—	—	62
343		飛鳥	B I -2c	53.0	(60.0)	—	—	—	—	—	1
344	大宮	平安後期	B II -2c	38.0	142.0	—	9.0	—	—	—	1·63
345	妙楽寺Ⅲ	室町	D-b	—	—	—	—	—	—	溝	1·64
346	滋賀里	古墳後期	B I -2	(31.0)	(50.0)	—	—	—	—	—	1
347	柿木原	平安後期	C II -2b	(45.0)	(110.0)	—	—	—	—	—	1
348	斗西	古墳中期	A II -1b	54.0	77.0	—	—	—	イスノキ	—	1
349		奈良	B I -1a	38.0	(126.0)	—	—	—	イスノキ	—	—
350	北萱	古墳中期	A I -1a	(53.0)	(56.0)	—	9.0	7.0	イスノキ	—	1
351		古代	A II -1a	(48.0)	(34.0)	—	9.0	6.0	ツゲ	—	—
352		古代	B I -1c	(36.0)	(52.0)	—	8.0	5.0	—	—	—
353		古代	B II -2a	40.0	(86.0)	—	9.0	10.0	ツゲ	—	—
354	鳥取	大御堂廃寺	不明	(18.0)	(84.0)	—	—	8.0	—	—	67
355		不明	(23.0)	(18.0)	—	—	8.0	—	—	—	—
356	米子城21	近世	C II -2b	—	—	—	—	—	—	土壌	68
357		近世	不明	—	—	—	—	—	—	土壌	—
358		近世	D	—	—	—	—	—	—	土壌	—
359		近世	不明	—	—	—	—	—	—	溝	—
360		近世	不明	—	—	—	—	—	—	土壌	—
361	岡山	天瀬・岡山城外掘	近世	B II -2b	36.0	160.0	16.0	10.0	7.0	黒漆	—
362		近世	D-b	30.5	(19.4)	—	4.0	12.0	—	—	69
363	津寺4	中世	B II -2c	48.0	(40.0)	—	9.5	10.0	イスノキ	—	70
364	田益田中	近世	C II -2b	48.0	(6.2)	—	12.0	—	—	溝	—
365		近世	不明	(20.0)	(32.0)	—	4.0	10.0	—	黒漆	—
366		近世	B II -2c	(44.0)	(50.0)	—	4.0	7.0	—	黒・赤漆	—
367		近世	B II -2b	(42.0)	110.0	8.0	10.0	7.0	—	墨絵	—
368		近世	B II -2c	53.0	(90.0)	—	4.0	7.0	—	—	—
369	大岩	近世	B II -2c	19.7	(72.7)	—	4.0	6.0	—	—	72
370	百間川米田4	中世	B II -2b	46.0	(74.0)	—	9.0	11.0	—	—	貝塚
371		中世	不明	(40.0)	(24.0)	—	8.0	15.0	—	—	貝塚
372		中世	不明	(32.0)	(20.0)	—	7.0	12.0	—	—	貝塚
373		中世	不明	(42.0)	(36.0)	—	7.0	12.0	—	—	貝塚
374		中世	不明	(22.0)	—	—	9.0	14.0	—	—	貝塚
375		中世	不明	(30.0)	(56.0)	—	10.0	11.0	—	—	貝塚
376		中世	不明	(20.0)	(52.0)	—	8.0	12.0	—	—	河道
377		中世	不明	(26.0)	(26.0)	—	7.0	22.0	—	—	河道

378		中世	不明	(21.0)	(23.0)	—	7.0	11.0	—	—	河道	
379		中世	不明	(20.0)	(44.0)	—	7.0	12.0	—	—	河道	
380		中世	不明	(16.0)	(20.0)	—	2.5	8.0	—	—	河道	
381	広島	草戸千軒町	鎌倉	B	—	—	—	—	—	—	—	74・75・76
382		室町	C	47.0	(56.0)	—	12.0	3.0	—	黒漆	土壤	77・78・79
383		室町	B	(32.0)	(92.0)	—	12.0	3.0	—	—	井戸	80・81・82
384		室町	不明	(45.0)	(73.0)	—	12.0	3.0	—	黒漆	土壤	83・84・85
385		中世	不明	(25.0)	(40.0)	—	10.0	—	イスノキ	—	井戸	86・87
386		中世	B II -2b	42.5	(57.0)	—	10.0	8.0	イスノキ	黒漆	井戸	
387		鎌倉	C	37.0	(58.0)	—	10.0	3.0	—	黒漆	溝	
388		鎌倉	B II -2c	43.0	(50.0)	—	8.0	7.0	—	黒漆	河川	
389		鎌倉	不明	42.0	(41.0)	—	9.0	5.0	—	黒漆	河川	
390		鎌倉	B II -2b	(43.0)	(49.0)	—	10.0	9.0	—	黒漆	井戸	
391		鎌倉	B II -2b	33.0	(66.0)	—	8.0	7.0	—	黒漆	河川	
392		中世	不明	52.0	(74.0)	—	12.0	8.0	—	黒漆	溝	
393		中世	B II -2c	37.0	74.0	—	10.0	8.0	—	黒漆	溝	
394		室町	B-1c	(34.0)	(43.0)	—	10.0	7.0	—	黒漆	土壤	
395		室町	B II -2c	(36.0)	(45.0)	—	9.0	7.0	—	黒漆	土壤	
396		室町	B II -2c	36.5	(42.5)	—	10.0	8.0	—	—	井戸	
397	広島城外掘	近世	B I -1c	(19.0)	84.0	18.0	9.0	8.0	—	—	—	88
398	鷺田	鎌倉	A II -1b	—	—	—	—	—	—	—	—	1
399	山口	萩城 I (外掘地区)	近世	D-b	50.0	(45.0)	9.0	5.0	—	漆	—	89
400		近世	B II -2b	(43.0)	91.0	6.0	7.0	5.0	—	—	—	
401		近世	D-b	(43.0)	89.0	21.0	9.0	6.0	イスノキ	—	—	
402		近世	B II -2b	47.0	94.0	—	9.0	—	イスノキ	—	—	
403		近世	B II -2b	—	—	—	—	—	漆	—	—	
404	徳島	黒谷川宮ノ前	—	B II -2b	(27.5)	(57.0)	—	11.0	—	イスノキ	—	90
405		—	B I -2	(16.5)	(74.0)	—	10.0	—	—	—	—	
406	南前川1丁目	—	B I -1a	(24.0)	(100.0)	—	9.0	11.0	—	黒漆	—	91
407	新蔵町3丁目	近世	B II -2b	(32.0)	100.0	18.0	12.0	9.0	—	—	—	92
408	観音寺 I	—	B II -2b	40.0	88.0	8.0	8.0	8.0	—	—	—	93
409	福岡	井上粟師堂	—	B II -1a	38.0	(62.0)	—	8.0	9.0	—	—	94
410		—	B I -1a	(35.0)	(58.0)	—	11.0	8.0	—	—	—	
411		—	B II -1b	36.0	(25.0)	—	8.0	7.0	—	—	—	
412		—	不明	(41.0)	(41.0)	—	10.0	7.0	—	—	—	
413	井上2区	近世	B I -2c	(14.5)	94.5	12.0	4.5	5.0	—	—	—	95
414	大富	近世	B II -2b	(42.0)	104.0	7.0	7.0	5.0	—	—	—	96
415		近世	不明	(18.0)	(37.0)	—	7.0	6.0	—	—	—	
416	長野A 2	平安	B I -1a	39.0	(78.0)	—	10.0	5.0	イスノキ	—	—	97
417		平安	B II -2a	38.0	(69.0)	—	9.0	5.0	イスノキ	—	—	
418		平安	不明	(39.0)	(30.0)	—	15.0	2.0	ツバキ	—	—	
419	勝円	平安	不明	(21.0)	(34.5)	—	9.0	—	—	—	—	98
420	小倉城代米御蔵 I	近世	不明	(29.0)	(41.0)	—	7.5	5.0	—	黒漆	—	99
421	宗玄寺	近世	B II -2c	(38.0)	(72.0)	—	—	5.0	イスノキ	—	—	100
422		近世	B II -2c	(40.0)	(67.0)	—	8.0	7.0	—	—	—	
423		近世	B II -2c	42.0	135.0	12.0	9.0	4.0	—	—	—	
424		近世	不明	(37.0)	(96.0)	—	—	—	漆	—	—	
425		近世	B II -2b	49.0	100.0	9.0	8.0	5.0	—	—	—	
426		近世	B II -2b	49.0	102.0	10.0	8.0	9.0	—	—	—	
427		近世	B II -2b	48.0	102.0	9.0	7.0	10.0	—	—	—	
428		近世	B II -2c	48.0	115.0	18.0	8.0	8.0	—	—	—	
429		近世	B II -2b	48.0	119.0	18.0	7.0	5.0	—	—	—	
430		近世	B II -2b	50.0	104.0	11.0	7.0	8.0	—	—	—	
431		近世	B II -2b	50.0	107.0	12.0	9.0	5.0	—	—	—	
432		近世	B II -2c	(30.0)	(65.0)	—	—	4.0	イスノキ	—	—	
433		近世	B II -1b	(30.0)	(78.0)	—	9.5	—	イスノキ	—	—	
434	小糸	—	D-b	(46.0)	(83.0)	—	10.0	—	ツゲ	—	—	101
435		—	D-b	45.0	85.0	—	9.0	—	—	—	—	
436		—	D-b	46.0	(70.0)	—	10.0	—	ツゲ	—	—	
437	堅町第1地点	近世	B II -2b	(42.0)	102.0	15.0	7.5	9.0	—	—	—	102
438	寺田	平安	不明	(32.0)	44.0	—	4.5	—	—	—	—	103
439	筑前国分寺 I	平安	B I -1c	41.0	(35.0)	—	10.0	10.0	—	—	—	104
440	佐野遺跡群V	近世	不明	(36.0)	(40.5)	—	—	3.0	—	—	—	105
441	石田	—	不明	(25.0)	(18.0)	—	7.0	7.0	イスノキ	—	—	106
442		—	B II -2a	43.0	(59.0)	14.0	12.0	11.0	イスノキ	—	—	
443		—	不明	(28.0)	(67.0)	—	11.0	7.0	イスノキ	—	—	
444	上清水1区	—	不明	(25.7)	(33.0)	—	12.0	3.0	—	黒漆	—	107
445	金山 I・V区	—	B I -1a	24.0	(38.0)	—	9.0	—	イスノキ	—	—	108・109
446	三宅廃寺	—	B I -2c	(25.0)	(26.0)	—	4.0	4.0	ツゲ	—	—	110
447		—	不明	(26.0)	(26.0)	—	11.0	7.0	ツゲ	—	—	
448	京町	近世	不明	(12.0)	(90.0)	—	6.0	—	—	—	—	111
449	普済院	—	不明	(13.0)	(12.0)	—	—	6.0	—	—	—	112

## 参考・引用文献（〔数字〕は文中の引用文献No、表1の文献Noに対応）

- [1] 斎宮歴史博物館1995『日本の櫛 - 別れの御櫛によせて -』
- [113] 群馬県立歴史博物館1979『開館記念展「群馬の埴輪」』
- [114] 茨城県立歴史観2004『茨城の形象埴輪 - 県内出土形象埴輪の集成と調査研究 -』学術調査報告書VII
- [115] 山梨県立考古博物館『一九九八年 古代の装身具 第六回企画展』
- ポーラ文化研究所1989『日本の化粧 - 道具と心模様 -』
- ポーラ文化研究所1991『粧いの文化史 江戸の女たちの流行通信』
- ポーラ文化研究所1996『世界の櫛』ポーラ文化研究所コレクション2
- ポーラ文化研究所1997『韓国の装い - 化粧文化No 36 -』
- ポーラ文化研究所2000『結うこころ 日本髪の美しさとその型』
- むげん出版1998『江戸期の櫛・かんざし その不思議な力』「遊楽No 67」
- 趙現鐘・張齊根1992『光州新昌洞遺蹟 - 第1次調査概報 -』「考古学誌」第4輯
- 奈良国立文化財研究所1985『木器集成図録 - 近畿古代篇 -』
- 松本綾子1995『江戸の髪飾り』「國學院大學考古学資料館紀要」第11輯
- 辻 裕司2001『横櫛-横櫛の分類と生産遺跡-』『研究紀要』第7号
- 吉川弘文館2000『卷二十三 民部下』『新訂増補 国史大系26 交替式・広仁式・延喜式』
- ルドルフP. ホムメル1992『中国手工業誌』財団法人法政大学出版局
- 秋山忠彌1997『ヴィジュアル「もの」と日本人の文化誌』雄山閣出版株式会社
- 鳥居本代2003『平安朝のファッション文化』春秋社
- 伊藤秀雄1997『髪の歴史』北宋社
- 灰野昭朗1997『京都書院アーツコレクション34 櫛・かんざし 田村コレクション』京都書院
- 雄山閣出版1991『装身具』『古墳時代の研究 3 生活と祭祀』
- 木立雅郎『木製櫛の変容とその意義について』『野本遺跡』石川県教育委員会
- 町田章『装身具の意義と歴史』『季刊考古学』第5号 特集：装身の考古学
- 三浦健一1990『柳之御所出土の木製品 - 速報 -』「紀要X」（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
- 中川重年『針葉樹』保育社
- 福島県立博物館『いにしえの木の匠』
- 静岡県立登呂博物館1996『特別展 登呂の時代シリーズ 樹のあるくらし -道具にみる知恵とこころ-』
- 斎宮歴史博物館1994『特別展〈開設五周年記念〉三重県の祭祀遺跡 - まつりのかたち さまざま -』
- 小学館『山田昌久編2003『考古資料大観8 弥生・古墳時代 木・織維製品』
- [2] 青森県教育委員会1980『大平遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第52集
- 青森県教育委員会1997『垂柳遺跡・五輪野遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第219集
- [3] 岩手県埋蔵文化財センター1981『東北縦貫自動車道関連遺跡発掘調査報告書 二郡安代町扇畠I遺跡』岩手県埋蔵文化財センター文化財調査報告書第17集
- [4] （財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター『志羅山遺跡第14・25次発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第216集
- [5] 多賀城市教育委員会1986『山王遺跡 昭和60年度発掘調査報告書 I』多賀城市文化財調査報告書第9集
- [6] 多賀城市埋蔵文化財調査センター1991『山王遺跡第I 0次発掘調査概報（仙塩道路建設に伴う八幡地区調査）』多賀城市埋蔵文化財調査報告書第27集
- [7] 宮城県教育委員会1994『山王遺跡 I 古墳時代中期遺物包含層編』宮城県文化財調査報告書第161集
- [8] 宮城県教育委員会1994『山王遺跡八幡地区の調査 - 1県道泉塩釜線関連調査報告書 I』宮城県文化財調査報告書第162集
- [9] 宮城県教育委員会・宮城県土木部2001『山王遺跡八幡地区の調査 2』宮城県文化財調査報告書第186集
- [10] 多賀城市埋蔵文化財調査センター2001『市川橋遺跡』多賀城市埋蔵文化財調査報告書 I
- [11] 仙台市教育委員会1997『郡山遺跡第112次発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第222集
- [12] 宮城県教育委員会1978『伊治城跡 I 昭和52年度発掘調査報告』多賀城関連遺跡発掘調査報告書第2冊
- [13] 仙台市教育委員会1994『中田南遺跡』仙台市文化財調査報告書第182集
- [14] 東北大学埋蔵文化財調査研究センター1997『東北大学埋蔵文化財調査年報8 仙台城二の丸跡第9地点の調査』
- [15] 東北大学埋蔵文化財調査宮城県教育委員会2001『一本柳遺跡 II』宮城県文化財調査報告書第185集
- 仙台市教育委員会1983『S57年度環境整備予備 史跡遠見塚古墳』
- 角田市教育委員会1990『西屋敷1号墳・吉ノ内1号墳発掘調査報告書』角田市文化財調査報告書8集
- 角田市教育委員会1990『西屋敷1号墳・吉ノ内1号墳発掘調査報告書』角田市文化財調査報告書8集
- 東北大学埋蔵文化財調査委員会1993『東北大学埋蔵文化財調査年報6』
- [16] 秋田市教育委員会秋田城調査事務所1993『平成四年度秋田城跡調査概要』
- [17]
- [18] 山形県教育委員会1989『大槻遺跡第2次発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書第139集
- [19] 財団法人山形県埋蔵文化財センター1998『上高田遺跡第2・3次発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第57集
- [20] 財団法人山形県埋蔵文化財センター1999『米沢城跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第66集
- [21] 米沢市教育委員会2000『米沢城東二の丸跡発掘調査報告書』米沢市埋蔵文化財調査報告書第68集

- [22] 米沢市教育委員会2002『米沢城南三の丸跡発掘調査報告書』米沢市埋蔵文化財報告書第76集
- [23] 財団法人山形県埋蔵文化財センター 2002『鶴ヶ岡城跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第99集
- [24] 山形県教育委員会1984『沼田遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書第78集
- [25] 山形県教育委員会1985『沢田遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書第88集
- [26] 財団法人山形県埋蔵文化財センター 1994『亀ヶ崎城跡第2次発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第17集
- [27] 財団法人山形県埋蔵文化財センター 1997『荒川2遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第40集
- [113] 山形市教育委員会1995『馬城台遺跡発掘調査報告書』
- 山形県教育委員会1985『お花山古墳群発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書第85集
- 米沢市教育委員会2001『古志田東遺跡発掘調査報告書』米沢市埋蔵文化財調査報告書第73集
- [28] 福島県安達町教育委員会1981『油王田遺跡発掘調査報告書』
- [29] 福島県いわき農地事務所・福島県いわき市教育委員会・財団法人いわき市教育文化事 [30] 財団法人茨城県教育財団1999『下り松遺跡・油内遺跡(下巻)』茨城県教育財団文化財調査報告第145集
- [31] 財団法人茨城県教育財団1993『白石遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告第82集
- 業団1991『戸田条里遺跡 水田跡の調査』いわき市埋蔵文化財調査報告第29冊
- 財団法人茨城県教育財団1990『沢田遺跡(下)』茨城県教育財団文化財調査報告第77集
- 財団法人茨城県教育財団1998『宮ヶ崎遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告第141集
- 財団法人茨城県教育財団2003『梶内向山遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告第199集
- [33] 財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団『行田市・熊谷市 小敷田遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第95集
- [34] 財団法人市原市文化財センター 1984『千葉県市原市 小田部新地遺跡』財団法人市原市文化財センター調査報告書第4集
- [35] 港区教育委員会1994『筑前福岡藩黒田屋敷跡遺跡発掘調査報告書』区内近世都市江戸関連遺跡発掘調査報告18
- [36] 帝都高速度交通開拓団1994『和泉伯太藩上屋敷跡』
- [37] 南麻布福祉施設建設用地内遺跡調査会1991『南麻布一丁目 港区No. 91遺跡』
- [38] 港区教育委員会1988『虎ノ門五丁目 芝神谷町屋跡遺跡』
- 千葉県佐倉市教育委員会1994『千葉県佐倉市 城番塚遺跡発掘調査報告書』
- [39] 山梨県埋蔵文化財センター 1992『山梨県北巨摩郡須玉町 塩川遺跡』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第70集
- 山梨県教育委員会1990『見洗沢遺跡・一町五反遺跡』山梨県埋蔵文化財センター調査報告第55集
- [32] 新潟県相川町教育委員会2003『佐渡金山遺跡(佐渡奉行所跡)』相川町埋蔵文化財調査報告第3
- 栃木県教育委員会・(財) 栃木県文化振興事業団『下古館遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第166集
- [57] 財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所1996『梅原胡麻堂遺跡発掘調査報告』富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告第7集
- [58] 石川県埋蔵文化財センター 1986『漆町遺跡I』
- [59] 石川県松任市教育委員会1996『東大寺領横江庄遺跡II』
- [60] 石川県考古学研究会1995『石川県考古資料・調査集成事業報告書 装身具I』
- 金沢市教育委員会『戸水遺跡群II・戸水大西遺跡I』
- 能登町教育委員会1984『真脇遺跡発掘調査概要』
- [61] 伊勢菰野藩土方屋敷跡遺跡調査会1992『伊勢菰野藩土方屋敷跡遺跡発掘調査概要』区内近世都市江戸関連遺跡発掘調査報告14
- 三重県埋蔵文化財センター 2000『堀町遺跡』三重県埋蔵文化財調査報告123-7
- [40] 財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所1986『神明原・元宮川遺跡』
- [41] 静岡県教育委員会1998『駿府城跡I』静岡県埋蔵文化財調査報告44
- [42] 財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所2001『領家遺跡II・梅橋古墳』静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第126集
- [43] 財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所1995『池ヶ谷遺跡III』静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第62集
- [44] 財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所1988『内荒遺跡』静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第16集
- [45] 財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所1993『御殿川流域遺跡群I 中島西原遺跡・八反遺跡・梅名遺跡』静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第44集
- [46] 財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所1994『御殿川流域遺跡群II 中島西原遺跡・八反遺跡・梅名遺跡』静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第50集
- [65] 財団法人愛知県埋蔵文化財センター 1992『朝日西遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第28集
- [66] 財団法人愛知県埋蔵文化財センター 1995『吉田城遺跡II』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第59集
- 財団法人愛知県埋蔵文化財センター 1995『島田陣屋遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第58集
- [47] 奈良国立文化財研究所1976『平城京左京八条三坊発掘調査概要』
- [48] 奈良国立文化財研究所1983『平城京左京三条一坊七坪発掘調査報告』
- [49] 奈良国立文化財研究所1984『平城京右京八条一坊十一坪発掘調査報告書』
- [50] 奈良国立文化財研究所1986『平城京左京九条三坊十坪発掘調査報告書』
- [116] 奈良国立文化財研究所『平城京右京八条一坊十三・十四坪発掘調査報告』奈良国立文化財研究所学報 第46冊
- [51] 奈良県教育委員会1995『平城京左京二条二坊・三条二坊発掘調査報告・長屋王邸・藤原麻呂邸の調査-』
- [52] 財団法人京都市埋蔵文化財研究所1992『平安京右京六条一坊 平安時代前期邸宅跡の調査』京都市埋蔵文化財研究所調査報告第11冊
- [53] 財團法人古代學協會1985『平安京左京八條三坊二町第2次調査』平安京跡研究調査報告第16輯
- [54] 財團法人古代學協會1983『三條西殿跡』平安京跡研究調査報告第7輯
- [55] 京都文化博物館1998『内里八丁遺跡』京都文化博物館調査研究報告第13集

財団法人京都市埋蔵文化財研究所1988『昭和60年度京都市埋蔵文化財調査概要』

- [56] 大阪府教育委員会1982『川北遺跡発掘調査概要・Ⅱ』
- [114] 財団法人大阪府文化財調査研究センター調査報告書2000『小阪合遺跡』(財)大阪府文化財研究
- [62] 滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会1997『穴太遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
- [63] 滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会1988『妙楽寺遺跡Ⅲ』
- [64] 滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会1991『大宮遺跡発掘調査報告書』
- 滋賀県教育委員会2000『襖遺跡』
- 財団法人滋賀県文化財保護協会1997『栗津湖底遺跡第3貝塚』
- [67] 倉吉市教育委員会2001『史跡 大御堂廃寺跡発掘調査報告書』倉吉市文化財調査報告書第107集
- [68] 財団法人鳥取県教育文化財団1998『鳥取市米子城 米子城跡21遺跡』鳥取県教育委員文化財団調査報告書56
- 福部村教育委員会1989『鳥取県岩美郡福部村 栗谷遺跡発掘調査報告書Ⅱ』福部村埋蔵文化財調査報告書第6集
- 財団法人鳥取県教育文化財団・建設省倉吉工事事務所1992『鳥取県西伯淀江町 福岡遺跡』鳥取県教育文化財団調査報告書27
- [69] 岡山県教育委員会・国土交通省岡山国道工事事務所2001『天瀬遺跡・岡山城外堀跡』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告書154
- [70] 岡山県古代吉備文化財センター 1997『津寺遺跡4』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告116
- [71] 岡山県古代吉備文化財センター 1999『田益田中(国立岡山病院)遺跡』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告141
- [72] 岡山県古代吉備文化財センター 1998『大岩遺跡・田益田中遺跡・白壁奥遺跡』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告128
- [73] 岡山県教育委員会・岡山県古代吉備文化財センター 2002『百間川米田遺跡4』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告164
- [74] 広島県教育委員会1973『草戸千軒町遺跡第9・10次発掘調査概要』
- [75] 広島県教育委員会1976『草戸千軒町遺跡第11~14次発掘調査概要』
- [76] 広島県草戸千軒町遺跡調査研究所・広島県教育委員会1978『草戸千軒町遺跡第24~26次発掘調査概要』
- [77] 広島県草戸千軒町遺跡調査研究所・広島県教育委員会1979『草戸千軒町遺跡第27次発掘調査概要』
- [78] 広島県草戸千軒町遺跡調査研究所・広島県教育委員会1980『草戸千軒町遺跡第28・29次発掘調査概要』
- [79] 広島県草戸千軒町遺跡調査研究所・広島県教育委員会1981『草戸千軒町遺跡第30次発掘調査概要』
- [80] 広島県草戸千軒町遺跡調査研究所・広島県教育委員会1983『草戸千軒町遺跡第32次発掘調査概要』
- [81] 広島県草戸千軒町遺跡調査研究所・広島県教育委員会1986『草戸千軒町遺跡第35・36次発掘調査概要』
- [82] 広島県草戸千軒町遺跡調査研究所・広島県教育委員会1987『草戸千軒町遺跡第37~39次発掘調査概要』
- [83] 広島県草戸千軒町遺跡調査研究所・広島県教育委員会1988『草戸千軒町遺跡第40・41次発掘調査概要』
- [84] 広島県草戸千軒町遺跡調査研究所・広島県教育委員会1989『草戸千軒町遺跡第42・43次発掘調査概要』
- [85] 広島県草戸千軒町遺跡調査研究所・広島県教育委員会1990『草戸千軒町遺跡第44・45次発掘調査概要』
- [86] 広島県草戸千軒町遺跡調査研究所1993『草戸千軒町遺跡発掘調査報告I 北部地域北半部の調査』
- [87] 広島県草戸千軒町遺跡調査研究所1995『草戸千軒町遺跡発掘調査報告III 南部地域北半部の調査』
- [88] 財団法人広島市歴史科学教育事業団1997『広島城外堀跡城北駅北交差点地点発掘調査報告』(財)広島市歴史科学教育事業団調査報告書第18集
- [89] 財団法人山口県教育財団山口県埋蔵文化財センター 2002『萩城跡(外堀地区) I』山口県埋蔵文化財センター調査報告第27集
- [90] 徳島県教育委員会・財団法人徳島県埋蔵文化財センター・日本道路公団1994『四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告9 黒谷宮ノ前遺跡第2冊分』徳島県埋蔵文化財センター調査報告書第9集
- [91] 徳島県教育委員会・財団法人徳島県埋蔵文化財センター 2002『南前川町1丁目遺跡 鳴門教育大学(附小)校舎新営埋蔵文化財発掘調査報告書』徳島県埋蔵文化財センター調査報告書第36集
- [92] 徳島県教育委員会・財団法人徳島県埋蔵文化財センター 2000『新蔵町3丁目遺跡徳島保健所地点 徳島保健所改築事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』徳島県埋蔵文化財センター調査報告書第31集
- [93] 徳島県教育委員会・財団法人徳島県埋蔵文化財センター・国土交通省四国地方整備局2002『觀音寺遺跡I(木管篇) 一般国道192号徳島南環状道路改築に伴う埋蔵文化財発掘調査』徳島県埋蔵文化財センター調査報告書第40集
- [94] 福岡県教育委員会1987『九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告10小郡市所在井上薬師堂遺跡の調査』
- 財団法人北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室1995『草原遺跡・井上遺跡2区 都市 [95] 財団法人北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室1995『草原遺跡・井上遺跡2区 都市計画道路幹線5号線建設に伴う中・近世集落跡の調査』北九州市埋蔵文化財調査報告書第163集
- [96] 財団法人北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室1997『大畠遺跡』北九州市埋蔵文化財調査報告書第200集
- [97] 財団法人北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室1987『長野A遺跡2(Ⅱ・V・VI区の調査)九州縦貫自動車道関係文化財調査報告11』北九州市埋蔵文化財調査報告書第54集
- [98] 財団法人北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室1985『勝円遺跡(C地点) 国道10号曾根バイパス関係埋蔵文化財調査報告I』北九州市埋蔵文化財調査報告書第41集
- [99] 財団法人北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室2002『小倉城代米御藏跡I』北九州市埋蔵文化財調査報告書第271集
- [100] 財団法人北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室1995『宗玄寺跡』北九州市埋蔵文化財調査報告書第172集
- [101] 財団法人北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室1987『小糸遺跡』北九州市埋蔵文化財調査報告書第58集
- [102] 財団法人北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室2000『豊町遺跡第1地点 都市計画道路大門三六線建設工事に伴う埋蔵文化財調査報告書1』北九州市埋蔵文化財調査報告書第244集
- [103] 財団法人北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室1988『寺田遺跡』北九州市埋蔵文化財調査報告書第70集
- [104] 太宰府市教育委員会1995『筑前国分寺跡I』太宰府市の文化財第32集
- [105] 太宰府市教育委員会1995『太宰府・佐野地区遺跡群V 宮ノ本遺跡第7-2次調査』
- [106] 財団法人北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室1990『石田遺跡』北九州市埋蔵文化財調査報告書第88集

- [107] 財団法人北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室1990『上清水遺跡Ⅰ区(奈良時代以降編)』北九州市埋蔵文化財調査報告書第90集
  - [108] 財団法人北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室1992『金山遺跡Ⅱ区』北九州市埋蔵文化財調査報告書第122集
  - [109] 財団法人北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室1999『金山遺跡Ⅰ・V区』北九州市埋蔵文化財調査報告書第223集
  - [110] 福岡市教育委員会1979『福岡市南区 三宅廃寺発掘調査報告書』福岡市埋蔵文化財調査報告書第50集
  - [111] 北九州市教育委員会1993『京町遺跡』北九州市埋蔵文化財調査報告書第59集
  - [112] 北九州市建設局・土井浜遺跡人類学ミュージアム1996『折尾横穴郡内 普済院跡』
- 財団法人北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室1999『常盤橋西勢溜り跡』北九州市埋蔵文化財調査報告書第229集  
財団法人北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室1999『園田浦城跡』北九州市埋蔵文化財調査報告書第232集  
財団法人北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室2001『小倉城下大坂町遺跡』北九州市埋蔵文化財調査報告書第92集  
甘木市教育委員会1995『屋永西原遺跡』甘木市文化財調査報告書第34集  
福岡県教育委員会1991『権田バイパス関係埋蔵文化財調査4 中巻』